

文学部教育学科
講義概要・授業計画

令和3年度（2021）

高野山大学

—— 本誌の利用に際して ——

この「講義概要・授業計画」は、令和3年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総 目 次

文学部教育学科.....	1
シラバスを活用しよう！	2
履修登録と見方.....	3
◆目次について	
◆講義コードについて	
◆受講登録について	
◆出席票について	
◆G P Aについて	
◆科目ナンバリングについて	
◆シラバス「他」欄について	
入学から卒業までの履修について(教育学科)	8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー D P）	
◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）	
◆必修科目	
◆選択科目	
◆自由科目	
カリキュラムマップ	
文学部教育学科科目目次.....	16
講義概要・授業計画	19
教員別索引（50 音順）	60

文 学 部
教 育 学 科

シラバスを活用しよう！

教育学科長

大学教育と高校までの教育との違いの一つに、学習の自己管理があります。高校までは、基本的に学校が作った時間割で学習しますが、大学ではいつどの科目をとるのかは、自分で決めます。だから、皆さんがどの科目を選択するのか決める際に、その科目の学習内容など、授業についての詳しい情報がなければ困ります。こうした情報を、教員が示したものが、シラバスというものです。

シラバスには、授業の目的や概要、到達目標、授業計画、テキスト、評価方法などが記されています。今年度の授業は、これに沿って進められますので、シラバスを大切に学修を進めてください。

また、本学はGPA制度を導入しています。GPAは後の頁に説明がありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でも尋ねてください。シラバスについても、GPAについても、大事なことです。十分に理解してください。

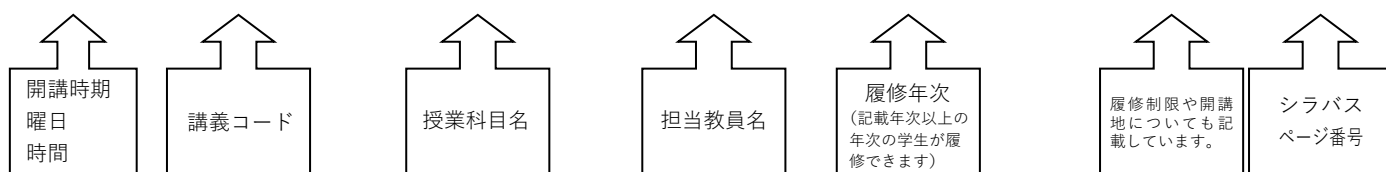
これからの1年間、意義ある学びをしていただくように期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

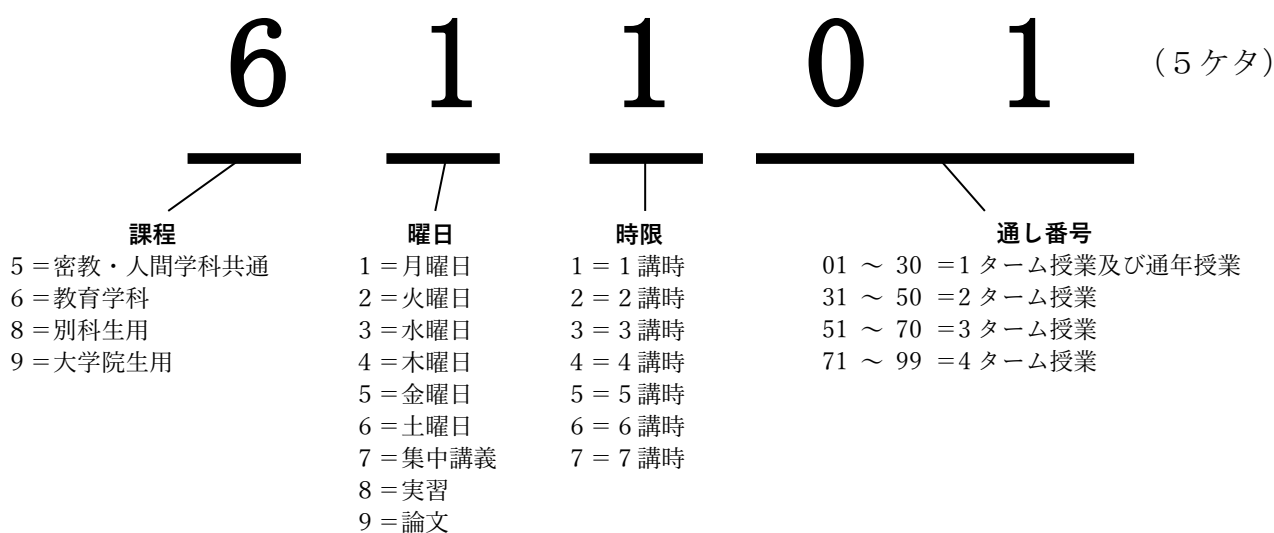
この『令和3年度文学部教育学科講義概要・授業計画』では、まず目次で開講科目を確認し、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

ターム	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	1・2	61101	空海の思想入門	添田 隆昭	2	1年次	—		20



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。



◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月9日（金）から4月15日（木）午後5時までに河内長野キャンパス事務室へ提出してください。
 - 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
 - ① 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。
 - ② 履修登録欄には、今年度を受講するすべての授業科目を、『令和3年度文学部教育学科講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。
- ※1年間に履修登録できるのは自由科目を除き 50 単位までです。
- 3 履修登録票を河内長野キャンパス事務室へ提出した学生は、4月20日（火）から4月22日（木）午後5時までに、河内長野キャンパス事務室で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、河内長野キャンパス事務室へ提出してください。
 - 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
 - 5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月7日（金）まで、後期は10月20日（水）まで受け付けますので河内長野キャンパス事務室に申し出てください。（※ただし、1～2年次配当の必修科目は履修取り消しができません。）
 - 6 後期（9月27日開講）授業科目の追加及び登録変更は、9月27日（月）から10月1日（金）午後5時までの後期履修登録変更期間に、河内長野キャンパス事務室へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第4回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」（999）になりますので留意してください。

◆GPAについて

1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

3 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合 格	90 点以上	S	4	特に優れた成績である
	89 点～80 点	A	3	優れた成績である
	79 点～70 点	B	2	妥当と認められる成績である
	69 点～60 点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59 点以下	D	0	合格と認められない成績である
失 格	999 点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認 定	888 点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

4 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

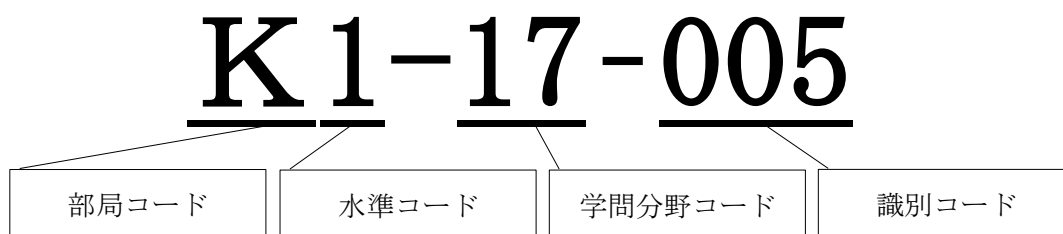
5 履修取り消し

前期は5月7日（金）まで、後期は10月20日（水）までと履修辞退期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

<高野山大学科目ナンバリングの形式>



<各コードの定義について>

1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するための項目です。

<部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。

入学から卒業までの履修について(教育学科)

◆卒業認定・学位授与に関する方針(教育学科ディプロマ・ポリシー DP)

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士(教育学)の学位を授与する。

1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

- (1)授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。(DP1)
- (2)子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。(DP2)
- (3)子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。(DP3)

2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

- (1)地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。(DP4)
- (2)地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針(教育学科カリキュラム・ポリシー)

文学部教育学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります(履修規程第3条)。

教育学科の科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれています。必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の内、小学校教諭関係科目、幼稚園教諭関係科目、体験サポート科目は、その中から履修科目を選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計94単位以上を取得してください。また、必修科目以外に、選択科目の中から30単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。)教育学科の学生は、必修科目94単位と選択科目30単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	教養科目	12単位	体験実習科目	8単位
基礎ゼミ科目	8単位	教職専門科目	14単位	課題探求科目	16単位
外国語コミュニケーション科目	4単位	小学校教諭/幼稚園教諭関係科目	20単位 選択必修	必修科目合計	94単位
キャリア科目	4単位	体験サポート科目	6単位 選択必修	選択科目合計	30単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。以下では、教育学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学ばよいかを考えてください。

河内長野キャンパスで学んでいる学生は、高野山キャンパス、難波サテライト教室で開講されている科目を履修することができます(1部科目を除く)。ただし、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位までしか認定されません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 94 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目は 20 単位以上となっていますが、開講科目は 68 単位分開講されており、その中から 20 単位以上を履修することができます。

科目区分／科目名	学年 配当	開講 時期	履修 単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
----------	----------	----------	----------	-----	-----	-----	-----	-----	------

【建学の精神科目】 2 単位 必修

空海の思想入門	1	半期	2		○	○	○	○	仏教思想の基礎と建学の精神である空海 の思想を学ぶ。
---------	---	----	---	--	---	---	---	---	-------------------------------

【基礎ゼミ科目】 8 単位 必修

基礎ゼミ I	1	半期	2	○					教育学科生として、教育の意義と役割を考え、 自分が何を学びたいか考える。
基礎ゼミ II	1	半期	2	○	○				教育の意義と役割を再確認し、自分が何に興味・ 関心があるのか考える。
基礎ゼミ III	2	半期	2					○	グループワークを含めた授業で、相互批判を通し て認識を深める。
基礎ゼミ IV	2	半期	2					○	教育に関わるキーワードに基づき、これらの知識 やスキルの理解に努める。

【外国語コミュニケーション科目】 4 単位 必修

English Communication I	1	通年	2	○	○				英語で聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと の言語活動を通して実践的コミュニケーション能 力を高める。
English Communication II	2	通年	2	○					English Communication I で学んだ知識や技能をよ り高いレベルの英語活用能力に押し上げることを 目指す。

【キャリア科目】 4 単位 必修

キャリアデザイン I	1	半期	2		○				職業観・倫理観、キャリアデザインについて概要 を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現 状について授業を行う。
キャリアデザイン II	2	半期	2		○				社会における職業の種類や、労働問題等を理解す る。自らの自己分析を行い、人生設計を立てキャ リアデザインを考える。

【教養科目】 12 単位 必修

ほとけの世界	1	半期	2			○	○	○	「ほとけ」について分かりやすく紹介し、 仏教と人間や社会との関わり、その役割な どについて理解することを目的とする。
日本国憲法	1	半期	2		○		○	○	憲法の全体像を意識しながら、個々の条文 の意義について、その歴史的背景(特に日本 国憲法の制定過程)や判例などを通して考察 する。
情報と教育	1	半期	2	○					情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力 の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用 に関する基礎的な能力を身に付ける。
生涯学習論	3	半期	2	○				○	生涯学習の過去・現在・未来(歴史・現状・展 望・課題)、社会教育と学校教育の連携、生涯発 達に即した学習・教育の内容や方法を、アクティ ブ・ラーニングと組み合わせて講義する。
平和教育	3	半期	2	○				○	平和教育の実践や課題を解説する。いのちの尊 さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解 することへと導く教育実践の方法や内容の基礎 を修得するために、様々な教科に関連づけ総合 的学習としてカリキュラム化する。
人権と社会	3	半期	2	○			○	○	「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史 や動きを知るとともに、そのことから個々がど のように他者や社会に働きかけるのか、解決に向 けての具体的な方法を身に付けられるようにする。

【教職専門科目】 14 単位 必修

教育原理	1	半期	2	○				○	教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出すことを目的とする。教育の基本的理念及び思想を我が国の歴史と世界の動向を視野に入れて学び身につける。
教職入門	1	半期	2	○					講義をとらえて現実の教育行政、特に学校教育の現場の様子を知り、教員としての基礎的知識やスキルを習得することをめざす。
教育と社会	2	半期	2					○	教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基軸に、学校や教師の役割、現状、課題を講義する。
教育心理学	2	半期	2				○	○	教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。
特別支援教育	2	半期	2					○	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性・心身の発達について理解する。
教育相談	2	半期	2			○	○	○	学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。
教育方法論	3	半期	2	○					教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的な VTR 事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。

【小学校教諭関係科目/幼稚園教諭関係科目】 20 単位 選択必修

小学校教諭関係科目	国語科内容論	1	半期	2	○					学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。
	社会科内容論	1	半期	2	○					社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。
	理科内容論	1	半期	2	○					小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の内容的な授業構成ができるように学習する。
	音楽科内容論	1	半期	2	○	○		○		「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学ぶ。
	家庭科内容論	1	半期	2	○			○		小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。
	初等英語科内容論	1	半期	2	○					新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。
	音楽 I (表現技法)	1	半期	1	○	○	○			音楽 I (表現技法)は音楽初学者を対象とし、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。
	算数科内容論	2	半期	2	○					小学校学習指導要領における算数科の目標、領域、各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する。
	生活科内容論	2	半期	2	○					新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。
	図画工作科内容論	2	半期	2	○					小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を正しく理解し、授業における評価と指導の実践力を身につける。
	体育科内容論	2	半期	2	○					小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。
	国語科指導法	2	半期	2	○					学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。

	社会科指導法	2	半期	2	○				小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得することとする。
	理科指導法	2	半期	2	○				小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。
	音楽科指導法	2	半期	2	○				小学校学習指導要領（音楽）の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。
	家庭科指導法	2	半期	2	○				家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。
	初等英語科指導法	2	半期	2	○				英語教育に関する様々理論を踏まえた講義を行う。
	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	2	半期	2	○				小学校の授業とその教材について、(1)典型的な事例の模擬授業の観察と教材分析を行う(2)典型的な授業の授業記録の分析を行う(3)受講者が用意された授業案とその教材を用いた模擬授業を互いに行う(4)受講者が自分たち自身で授業とその教材の試案を作る。
	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	2	半期	2	○				実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。
	音楽Ⅱ（表現技法）	2	半期	1	○				音楽Ⅱ（表現技法）は音楽経験者を対象とする。音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。
	算数科指導法	3	半期	2	○				算数科の目標、指導内容について理解し、授業づくり及び学習評価について学ぶ。
	生活科指導法	3	半期	2	○				生活科の特徴について、内容論を踏まえた講義のみならず、またちんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。
	図画工作科指導法	3	半期	2	○				図画工作科の学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力の育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修する。
	体育科指導法	3	半期	2	○				小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法をについて理解を深める。
幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	1	半期	2			○		幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	幼児と人間関係	1	半期	2	○	○			幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解する。具体的には、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。
	幼児と環境	2	半期	2	○				領域（環境）のねらいと内容の理解を深め、保育実践の構成力を身に付けると共に、「環境」を目的にした自然保育への知識理解をすることを目的とする。
	幼児と言葉	2	半期	2	○				『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして、「言葉」に関する教育・保育の内容を理解する。
	幼児と表現	2	半期	2	○				乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
	保育内容の指導法(健康)	3	半期	2	○				幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。
	保育内容の指導法(人間関係)	3	半期	2	○				「なぜ、人とかがかわることが大切なのか」の問いを自分自身の体験の振り返りを通して自己理解から考え、子どもを取り巻く人的環境を配慮する必要性も学んでいく。
	保育内容の指導法(環境)	3	半期	2	○				幼稚園教育要領「環境」で示している内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導だけではなく、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。

	保育内容の指導法(言葉)	3	半期	2	○					『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』におけるねらいを踏まえて、言葉の指導法を学ぶ。
	保育内容の指導法(造形表現)	3	半期	2	○					幼稚園教育要領領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方、知識、表現力を学ぶ。
	保育内容の指導法(音楽表現)	3	半期	2	○					領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。

【体験サポート科目】 2単位必修(地域体験基礎) 4単位 選択必修

地域体験基礎	1	半期	2					○	地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。
科学技術と社会	1	半期	2	○			○	○	AIの登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。
植物栽培の基本	1	半期	2					○	地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。
自然と人間	1	半期	2	○			○	○	自然と人間との歴史的経緯・問題点・これからの展望について解説する。理解が深まるよう、グループディスカッションを多く組み入れた講義を行う。
日本文化	1	半期	2				○		日本文化について、テーマを設けて学ぶ。本講義では、仏画について、その意味や教典との関係なども踏まえた講義を行い、仏画を通して仏教や日本文化について理解することを目指す。
文学	1	半期	2	○					小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。
創作研究	1	半期	2		○				認知能力の向上に演劇や絵本は貢献する。その理論を学び、教師となる学生自身の表現力も養う。
茶道	1	半期	2		○	○	○		日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初風炉、開炉、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。
書学入門(書道)	1	半期	2				○		小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。
地域体験特論	2	半期	2	○	○		○	○	地域で農業・栽培などの体験活動をするものの目的・意義をしっかりと理解させうえて、個別の体験活動についての説明を行う。

【体験実習科目】 8単位 必修

学校・保育現場体験Ⅰ	1	通年	2		○				1年次に学校現場での体験活動に参加し、学校についての理解に努める。こうした実際の教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員としての資質・能力を育成する。
学校・保育現場体験Ⅱ	2	通年	2		○				2年次における学校現場体験である。目的や活動内容はⅠと同様に、教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

地域体験Ⅰ	1	通年	1					○	大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅱ	1	通年	1		○		○	○	地域体験Ⅰと同じく、連携先の団体で体験的に学ぶ。街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅲ	2	通年	1					○	2年次における地域体験活動である。連携先および目的は地域体験Ⅰ、Ⅱと同様であり、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。
地域体験Ⅳ	2	通年	1		○		○	○	2年次における地域体験活動である。内容は、街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

【課題探求科目】 16単位 必修

専門基礎演習Ⅰ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究に繋がる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する理解、特にさまざまな学習理論や方法についての理解を深めることを中心としてすすめる。
専門基礎演習Ⅱ	3	半期	2	○	○	○	○	○	卒業研究につながる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する深い理解と、論文を作成するための必要な情報と文献整理・収集などの技能、ICTを利用した発表方法、ディスカッションする力、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を身につける。
専門演習Ⅰ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
専門演習Ⅱ	4	半期	2	○	○	○	○	○	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。
卒業研究	4	通年	8	○	○	○	○	○	卒業にあたって、すべての学生が、卒業論文を作成しなければならない。4年次の1年間を通じて、ゼミ担当教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文にまとめて提出し、審査をうけなければならない。

◆選択科目

教育学科の必修科目を94単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの30単位は、選択科目から履修することができます。また、余分に履修した選択必修科目を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、卒業単位にはなりませんので注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部教育学科目次で確認してください。

カリキュラムマップ（教育学科）

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数
基礎科目	建学の精神科目	空海の思想入門	2														
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2								
	外国語コミュニケーション科目	English communicationⅠ		English communicationⅠ	2	English communicationⅡ		English communicationⅡ	2	English communicationⅢ(集中)	1						
						高野山国際ガイド体験(集中)	1										
						中国語		中国語	2								
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2					キャリアデザインⅢ	2				
	教養科目	ほとけの世界	2	情報と教育	2					生涯学習論	2	人権と社会	2				
		日本国憲法	2	体育の理論と実技	2					平和教育	2	死生観	2				
		世界遺産と観光(集中)	2							常用経典(集中)	2	法式(集中)	2				
		AIと世界	2							声明(集中)	2	布教(集中)	2				
		身体技法(ダンス)	1														
		現代社会と医療	2	世界の医療課題	2												
専門科目	教職専門科目			教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	特別活動の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	2				
				教職入門	2	特別支援教育	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教職とICT	2				
				幼児理解方法論	2	教育相談	2	道徳教育の理論と方法	2	保育教育課程論	2						
								生徒指導論	2	教師力養成特講Ⅰ(HRマシメント)	2						
								進路指導・キャリア教育	2	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2						
	小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	社会科内容論	2	図画工作科内容論	2	算数科内容論	2								
		理科内容論	2	家庭科内容論	2	体育科内容論	2	生活科内容論	2								
		音楽科内容論	2														
		初等英語科内容論	2														
						国語科指導法	2	家庭科指導法	2	生活科指導法	2	算数科指導法	2				
						理科指導法	2	初等英語科指導法	2	図画工作科指導法	2						
						社会科指導法	2			体育科指導法	2						
						音楽科指導法	2	授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2								
	幼稚園教諭関係科目			音楽Ⅰ(表現技法)	1	授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2	音楽Ⅱ(表現技法)	1								
		幼児と健康	2	幼児と人間関係	2	幼児と環境	2			幼児と表現	2	保育内容の指導法(環境)	2				
						幼児と言葉	2			保育内容の指導法(健康)	2	保育内容の指導法(音楽表現)	2				
										保育内容の指導法(人間関係)	2						
										保育内容の指導法(言葉)	2						
										保育内容の指導法(造形表現)	2						

20単位
選択必修

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数
専門科目	理論的科目	保育士関係科目	社会福祉論	2	障害児保育	2	保育内容総論	2	保育原理	2	社会的養護Ⅰ	2	子ども家庭支援論	2			
			保育者論	2			乳児保育Ⅰ	2	子ども家庭福祉	2	社会的養護Ⅱ	2	子どもの食と栄養	2			
			子どもの保健	2				保育の心理学	2			子育て支援	2				
								子ども家庭支援の心理学	2								
								子どもの健康と安全	2								
								乳児保育Ⅱ	2								
								表現技術(ピアノ)	2								
								表現技術(造形)	2								
		心理学関係科目						発達心理学	2	心理身体論Ⅰ	2	心理身体論Ⅱ	2				
								カウンセリング論	2								
								学校臨床心理学	2								
	体験サポート科目	地域体験基礎	地域体験基礎	2	書学入門(書道)	2		地域体験特論	2	地域体験基礎を含んで6単位選択必修							
			植物栽培の基本	2	科学技術と社会	2											
			日本文化	2	自然と人間	2											
			創作研究(集中)	2	文学	2											
					茶道	2											
	体験的科目	教育実習科目								教育実習Ⅰ(小)		教育実習Ⅰ(小)	4				
										教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)		教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1				
										教育実習Ⅱ(幼1)		教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅲ(幼2)		教育実習Ⅲ(幼2)	2
										教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)		教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)		教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1
										保育実習Ⅰ(保育所)		保育実習Ⅰ(保育所)	2	保育実習Ⅱ		保育実習Ⅱ	2
										保育実習Ⅰ(福祉施設)		保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	保育実習指導Ⅱ		保育実習指導Ⅱ	1
										保育実習指導Ⅰ(保育所)		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	保育実習Ⅲ		保育実習Ⅲ	2
										保育実習指導Ⅰ(福祉施設)		保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1	保育実習指導Ⅲ		保育実習指導Ⅲ	1
		体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ		学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ		学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場ボランティア		学校・保育現場ボランティア	1			
			地域体験Ⅰ		地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ		地域体験Ⅲ	1	地域体験ボランティア		地域体験ボランティア	1			
			地域体験Ⅱ		地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ		地域体験Ⅳ	1							
							海外留学体験	4									
	課題探求科目									専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2
																卒業研究	8
																教職実践演習(幼・小)	2
																保育実践演習	2

文学部教育学科科目目次

「備考・履修条件」欄について

選択必修科目・・・

卒業要件として一定の単位数を要する。

履修規程を確認すること。

日 付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1 必修科目(選択必修含)

【基礎科目】

1) 「建学の精神」科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	1・2	61101	空海の思想入門	添田隆昭	2	1年次	—		20

2) 基礎ゼミ科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1・2	水	1	63104	基礎ゼミⅠ	山田正行/青木宏樹	2	1年次	—		21
3・4	水	1	63151	基礎ゼミⅡ	村尾聡/松本歩子	2	1年次	—		22

3) 外国語コミュニケーション科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	63201	English CommunicationⅠ	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎/保育士		23

4) キャリア科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	月	3・4	61371	キャリアデザインⅠ	帯野久美子	2	1年次	—		24

5) 教養科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
2	金	1・2	65131	ほとけの世界	永島龍弘	2	1年次	保育士選択		25
2	金	3・4	65331	日本国憲法	青木淳英	2	1年次	教職基礎/保育士		26
4	金	3・4	65371	情報と教育	広瀬勝則	2	1年次	教職基礎/保育士		27

【専門科目】

1) 教職専門科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	月	1・2	61171	教育原理	岡部美香/曾我部和馬	2	1年次	小幼免・保育士必修/福祉主事		28
4	木	1・2	64171	教職入門	今西幸蔵	2	1年次	小幼免必修		29

2) 小学校教諭関係科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
2	月	1・2	61131	国語科内容論	村尾聡	2	1年次	小免必修	選択必修科目	30
3	金	3・4	65351	社会科内容論	奥田修一郎	2	1年次	小免必修	選択必修科目	31
2	月	3・4	61331	理科内容論	児島昌雄	2	1年次	小免必修	選択必修科目	32
1	木	3・4	64301	音楽科内容論	植田恵理子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	33
3	月	3・4	61351	家庭科内容論	松本歩子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	34
2	木	3・4	64331	初等英語科内容論	森本敦子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	35
3	木	3・4	64351	音楽Ⅰ(表現技法)	岡本文音	1	1年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	36

3) 幼稚園教諭関係科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
2	木	1・2	64131	幼児と健康	青木宏樹	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	37
3	金	1・2	65152	幼児と人間関係	吉次豊見	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	38

4) 体験サポート科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	月	3・4	61301	地域体験基礎	奥田修一郎	2	1年次	—		39
3	金	1・2	65151	科学技術と社会	岡本正志	2	1年次	—	選択必修科目	40
1	金	3・4	65302	植物栽培の基本	竹田義	2	1年次	—	選択必修科目	41
3	水	3・4	63351	自然と人間	那須義次	2	1年次	—	選択必修科目	42
1	水	3・4	63301	日本文化	浅井雅宏	2	1年次	—	選択必修科目	43
3	金	3・4	65352	文学	村尾聡	2	1年次	—	選択必修科目	44
集中	集中	集中	67101	創作研究	伊藤佳世子	2	集中	—	選択必修科目 2/14/15/16/17	45
4	木	3・4	64372	茶道	岡本文音	2	1年次	—	選択必修科目	46
3	木	1・2	64151	書学入門(書道)	野田悟	2	1年次	小免必修	選択必修科目	47

5) 体験実習科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	1~4	62101	学校・保育現場体験Ⅰ	今西幸蔵	2	1年次	小幼免選択		48
通年	火	1~4	62102	地域体験Ⅰ	柳原高文	2	1年次	—		49
通年	火	1~4	62103	地域体験Ⅱ	松本歩子	2	1年次	—		50

2 選択科目

1) 教養科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
3	月	1・2	61151	体育の理論と実技	青木宏樹	2	1年次	教職基礎/保育士必修		51
1	金	3・4	65301	AIと世界	広瀬勝則	2	1年次	—		52
集中	集中	集中	67102	世界遺産と観光	宗田好史	2	集中	—	8/23・8/24・8/25・8/26	53
1	金	1・2	65102	身体技法(ダンス)	範衍麗	1	1年次	保育士選択		54

2) 教職専門科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
4	木	3・4	64371	幼児理解方法論	茂野仁美	2	1年次	幼免必修/保育士必修		55

3) 保育士関係科目

ターム	曜	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
1	金	1・2	65101	社会福祉論	溝渕淳	2	1年次	保育士必修/社福主事		56
1	木	1・2	64101	保育者論	板倉史郎	2	1年次	保育士必修		57
2	木	3・4	64332	子どもの保健	釜島美智代	2	1年次	保育士必修		58
4	金	1・2	65171	障害児保育	南亜紀子	2	1年次	保育士必修		59

講 義 概 要
•
授 業 計 画

科目名	空海の思想入門							学 期	前期1 ターム
副 題	弘法大師の生涯とその密教思想					授業 方法	講義	担当者	添田隆昭
ナンバ リング	K1-01-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し、日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察する。

授業の到達目標

弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解する。

授業計画

1. インド ヨーロッパ語族の広がり
2. ブッダの誕生
3. 部派仏教の成立
4. 大乘仏教の興起
5. 大乘経典（維摩経 般若経 法華経 華嚴経 涅槃経）
6. 密教経典の深化
7. 大日経 金剛頂経の成立
8. 弘法大師の生涯 1
9. 弘法大師の生涯 2
10. 弘法大師の著作 1
11. 弘法大師の著作 2
12. 入定留身
13. 入定留身以後
14. 大師信仰の現在 1
15. 大師信仰の現在 2

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容について関心のあった部分について関連図書で調べておくこと (90 分)

テキスト

必要に応じてプリントを配布する

参考書・参考資料等

添田隆昭「大師はいまだおわしますか」（高野山出版社）

学生に対する評価

期末の筆記試験（80％）と授業への積極性（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を自分の言葉で表現できる。
- (A) 専門用語を理解し自分の文章の中で駆使できる。
- (S) 興味のある部分について自分で探求し、文章化できる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には授業中に対応する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	基礎ゼミⅠ							学 期	前期 1・2 ターム	
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	山田正行/ 青木宏樹	
ナンバ リング	K1-17-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	1		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(授業のテーマ) 大学の教育理念である「いのち・文化・創造」について理解することを目的に、多様な研究の成果を学ぶことによって「いのちを活かす」人材となることをめざす。(授業の概要) 教育学科生として、教育の意義と役割を考える機会となる。大学に入学して多くの研究者と接することになるが、基礎ゼミⅠにおいては、本大学の教員による専門領域の内容を学び、自分が何を学びたいのかを考える機会を得る。授業は、オムニバス形式で専任教員の講義をふまえて演習を行い、スタディスキルを高めることにより教育目標の達成化を図る。

授業の到達目標

1. 教育の意義と役割について理解できる。 2. 多様な研究があることを知り、学修に関わる基礎的な知識やスキルを習得することができる。 3. さまざまな演習の機会をとおして、学んだ成果を自分の問題として捉えることができる。

授業計画

1. 本授業全体に関するオリエンテーション(山田・青木)
2. 自分の学部・学科の理解(山田)
3. 大学生活のデザイン化(青木)
4. 卒業研究に至る演習の理解(山田)
5. シラバスの活用と予習・復習(青木)
6. 講義の受け方と演習への参加と進め方(山田・青木)
7. 教育学の学びと演習(山田)
8. 教育社会学の学びと演習(山田)
9. 教育心理学の学びと演習(青木)
10. 心理ケアの学びと演習(青木)
11. 体育学の学びと演習(青木)
12. 社会学の学びと演習(山田)
13. 家政学の学びと演習(青木)
14. 自然科学の学びと演習(山田)
15. 本授業全体のまとめと助言(山田・青木)

準備学習(予習・復習)・時間

事前にシラバスを読んでおく。学習した内容やワーク等を踏まえて、ポイントを各自で整理して、次の授業に備える。

テキスト

各回ごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内課題(20%)、課題レポート(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことが理解できる。
- (B) 授業内容を理解して、主体的に行動できる。
- (A) 大学の講義や演習について理解している。
- (S) 授業内容を理解して、大学生活で自分が何を学びたいかを具現化できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎回出席をとる。テーマに基づいたグループディスカッションを行うことがある。今後の大学生活に大いに関係する授業なので、主体的に受講してほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

幼稚園教諭の経験をいかして、幼児心理学や心理学ケアの基礎方法等を講義する。幼児体育の指導経験をいかして、体育学の基礎について講義をする。(青木)

科目名	基礎ゼミⅡ							学 期	後期 3・4 ターム	
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	村尾聡/ 松本歩子	
ナンバ リング	K1-26-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

”(授業のテーマ)

大学の教育理念である「いのち・文化・創造」についての理解を深めることを目的に、科学的な研究の成果からアプローチする。「いのちを活かす人材」となることをめざす。

(授業の概要)

基礎ゼミⅠで学修したことをふまえ、本授業をとらえて教育の意義と役割を再確認し、学生一人一人が何に興味・関心を持つのかを検討する。そのために、本学専任教員の研究分野からの専門的な講義や演習を、コーディネーターの指導と共にオムニバス形式の授業を実施するので、内容理解に努めるとともに、自分が何を求めるのかを考えてほしい。

授業の到達目標

1. 教育の意義と役割について理解を深める。 2. 大学生生活の質を高め、学問・文化を理解することをめざして知識やスキルを身につける。 3. 科学的な視点で対象を理解する態度を身につける。 4. 広く社会をみつめることができ、その発展のために自らがどうあるべきかを考えることができる。

授業計画

1. 本授業に全体に関するオリエンテーション(村尾、松本)
2. 人文科学領域の学びと演習(1)(村尾)
3. 人文科学領域の学びと演習(2)(村尾)
4. 人文科学領域の学びと演習(3)(村尾)
5. 人文科学領域の学びと演習(4)(村尾)
6. 社会科学領域の学びと演習(1)(松本)
7. 社会科学領域の学びと演習(2)(松本)
8. 社会科学領域の学びと演習(3)(松本)
9. 社会科学領域の学びと演習(4)(松本)
10. 自然科学領域の学びと演習(1)(村尾、松本)
11. 自然科学領域の学びと演習(2)(村尾、松本)
12. 自然科学領域の学びと演習(3)(村尾、松本)
13. 自然科学領域の学びと演習(4)(村尾、松本)
14. 学生による発表会(村尾、松本)
15. まとめの講義(村尾、松本)

準備学習(予習・復習)・時間

学習内容を振り返り、レポートにまとめる (60 分)

テキスト

各回ごとに、資料を配布

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

授業担当教員による授業内課題(20%)や課題レポート(80%)等で総合的に評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことを理解し、レポートが作成できる。
- (B) 授業で説明したことを理解し、科学的な視点でレポートが作成できる。
- (A) 授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成できる。
- (S) 授業で説明したことを生かして、科学的な視点と広い視野をもってレポートが作成でき、授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

授業に出席することは当然であるが、大学生活を有意義に過ごすために積極的に取り組むこと。 グループワークやディスカッションを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務した経験を生かし、教員として学級をどう運営し、児童にどのように接していくのか、また現在の教育の問題状況についても考える機会を提供していきたい(村尾)。

科目名	English Communication I							学 期	通年	
副 題	一				授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子		
ナンバリング	K1-07-001	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

e-learning で学習したリーディング、リスニングの確認小テストと各課題の基礎文法を解説する。さらに様々な場面を想定して英語で対話形式の演習を行う。またポスターセッションやプレゼンテーションも実施する。

授業の到達目標

英語で表現し伝え合うために、英語による聞く事、読む事、話す事、書く事の言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて情報を整理しながら考えを形成し、再構築できるようになる事を旨す。

授業計画

【前期】	【後期】
1. オリエンテーション（講義の進め方、評価の仕方） 2. バーバル・ノンバーバルコミュニケーション 3. e-learning 小テストと基礎文法解説(1) ロールプレイ(自己紹介) 4. e-learning 小テストと基礎文法解説(2) ロールプレイ(家族構成及び紹介) 5. e-learning 小テストと基礎文法解説(3) ロールプレイ(キャンパスの紹介) 6. e-learning 小テストと基礎文法解説(4) ロールプレイ（道案内） 7. e-learning 小テストと基礎文法解説(5) ロールプレイ(電話対応) 8. e-learning 小テストと基礎文法解説(6) ロールプレイ(買い物等、ショッピング) 9. e-learning 小テストと基礎文法解説(7) ロールプレイ(ホテル等様々な予約) 10. e-learning 小テストと基礎文法解説(8) ロールプレイ(入国審査と搭乗手続き) 11. e-learning 小テストと基礎文法解説(9) ロールプレイ(幼稚園等) 12. e-learning 小テストと基礎文法解説(10) ロールプレイ(小学校等) 13. e-learning 小テストと基礎文法解説(11) ロールプレイ(病院) 14. e-learning 小テストと基礎文法解説(12) ロールプレイ(新聞記事等、ニュース) 15. 前期の授業内容についての解説、ポスターセッションと質疑応答	1. e-learning 小テストと基礎文法解説(13) ロールプレイ(日本文化の紹介①概要) 2. e-learning 小テストと基礎文法解説(14) ロールプレイ(日本文化の紹介②仏教等) 3. e-learning 小テストと基礎文法解説(15) ロールプレイ(日本文化の紹介③茶道) 4. e-learning 小テストと基礎文法解説(16) ロールプレイ(日本文化の紹介④華道) 5. e-learning 小テストと基礎文法解説(17) ロールプレイ(日本文化の紹介⑤書道) 6. e-learning 小テストと基礎文法解説(18) ロールプレイ(面接での自己紹介) 7. e-learning 小テストと基礎文法解説(19) ロールプレイ(面接での自己PR と志望動機) 8. e-learning 小テストと基礎文法解説(20) ロールプレイ(面接官からの質問等) 9. e-learning 小テストと基礎文法解説(21) ロールプレイ(面接官とのやりとり) 10. e-learning 小テストと基礎文法解説(22) ロールプレイ(プレゼンテーションの司会) 11. プレゼンテーションの為のグループワーク(プレゼンテーションで取り上げる内容について) 12. プレゼンテーションの為のグループワーク（プレゼンテーションの構成等) 13. プレゼンテーションの為のグループワーク（パワーポイント作成等) 14. プレゼンテーション及び解説 15. 全体のまとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として毎回こちらで担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。

テキスト

授業内容に応じて毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語』文部科学省(平成 29 年) 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験は実施しない。ポスターセッション(40%) プレゼンテーション(40%) e-learning 小テスト(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) トピックの英文を読める
- (B) ロール・プレイを完遂する
- (A) 自分の意見を英語で表現できる
- (S) 課題の英文を理解し、グループワークでリーダー的な立場で行動できる

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること

科目名	キャリアデザインⅠ							学 期	後期 4 ターム
副 題	－				授業 方法	演習	担当者	常野久美子	
ナンバ リ ン グ	K1-16-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

キャリアデザイン科目は、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会とのかかわりなどを理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を発揮し、社会貢献につながる人生をどう築くかを考えることである。自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くための科目である。

キャリアデザインⅠでは、職業観・倫理観、キャリアデザインについて概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について、各ゲストスピーカーを招いて授業を行い、授業担当者はゲストスピーカーを毎年コーディネートし、各授業において授業内容のねらいを学生に伝えコメントを加えることで学生のキャリアデザインを育む。

学生はこの授業によって自分の人生を「創る」ことを目指す。

授業の到達目標

・職業観・倫理観を身につける。 ・キャリアデザインとは何かを理解する。 ・日本社会の現状を理解し、変化する時代の中で生きる力を育成する。

授業計画

1. 日本を考える 伝統文化 狂言師(ゲストスピーカー)
2. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
3. 日本を考える 伝統文化 華道家(ゲストスピーカー)
4. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
5. 環境ビジネスを考える (ゲストスピーカー)
6. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
7. 地域ビジネスを考える (ゲストスピーカー)
8. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
9. グローバルビジネスを考える (ゲストスピーカー)
10. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
11. スポーツの世界を考える (ゲストスピーカー)
12. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
13. 食ビジネスを考える (ゲストスピーカー)
14. 講師への質疑応答、グループで提起された問題について考えをまとめ。発表する。 次回の資料配付とポイント説明。
15. まとめ、授業の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

予習：事前に配布する資料に基づき、各業界についての知識を自宅学習でまとめておくこと、さらに質問のポイントを整理しておく。(60分) 復習：発表、討論やワークを踏まえ、内容について各自で整理しておく。(30分)

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

レポート提出(70%) 授業への積極的な態度等(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリアデザインに関する語彙を理解できる
- (B) キャリアデザインとは何かについて理解できている
- (A) 日本社会の現状を理解し、職業を考えることができる
- (S) 変化する時代の中で生きる力を持って、自身のキャリアデザインを描くことができる

課題に対するフィードバックの方法

毎回、質疑応答の時間を取って、授業内でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

毎回、講師への質疑応答後グループワークを行い、発表するなどアクティブ・ラーニングとする

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

自ら企業を運営している取締役として、その経験を活かして、学生自身にキャリアデザインの設計や社会人基礎力を身に付けさせるような授業を行う。

科目名	ほとけの世界							学 期	前期 2 ターム
副 題	—					授業 方法	講義	担当者	永島龍弘
ナンバ リング	K1-02-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「ほとけ」について分かりやすく紹介し、仏教と人間や社会との関わり、その役割などについて理解することを目的とする。特に仏教の開祖釈尊の教えと真言宗の開祖弘法大師空海の教えを中心として仏教の理解を深める。講義の中で、密教瞑想である阿字観にも触れ、体験的に学ぶ。

授業の到達目標

釈尊と弘法大師の実像を知り、その教義を理解し、生きる指標とする。

授業計画

1. 「ほとけ」の考え方、見方
2. 釈尊の生涯 — 出生と成道 初転法輪と布教の旅
3. 釈尊の教え — 四諦・八正道、十二因縁
4. 仏教の伝播
5. シルクロード
6. 中国の事情 — 儒教と道教
7. 空海の生涯 — 出生と勉学
8. 空海の生涯 — 入唐と帰国
9. 高野山開創
10. 空海の教え — 自利行について
11. 空海の教え — 利他行について
12. 般若心経の教え
13. 実修 — 阿字観
14. 実修 — 写経
15. 現代に生きる仏教

準備学習(予習・復習)・時間

授業中に指示

テキスト

村上保壽 著 「空海-日本人のこころの言葉」 創元社

参考書・参考資料等

授業中で紹介

学生に対する評価

レポート（５０％） 発表（５０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教に関する基礎的な語彙を理解している。
- (B) 仏教・密教の歴史、釈尊、空海の生涯について知る。
- (A) 釈尊・空海の教えについて基礎的な理解を有し、説明できる。
- (S) 仏教、密教の教義を理解し、自らの生活・人生に活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶である教員がその経験を踏まえ、仏教と人間や社会とのかかわり、役割について講じる。

科目名	日本国憲法								学 期	前期 2 ターム
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	青木淳英	
ナンバ リ ン グ	K1-09-001	実務経験 の有無	無	関連 DP	2, 4, 5		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

憲法の全体像を意識しながら、個々の条文の意義について、その歴史的背景(特に日本国憲法の制定過程)や判例などを通して考察する。日本国憲法の三大原則とされる国民主権・平和主義・基本的人権の尊重に焦点を当て、私たちが日常生活のさまざまな場面で憲法と深く関わっていることを見つめ直す。

授業の到達目標

1. 現代の平和な日本社会を作るために努力してきた先人たちの取り組みを知り、説明できる。 2. 基本的人権の重要性を理解し、主権者として必要な「社会をみる眼」や人権感覚を身につけている。 3. 主権者として、平和な社会を引き継ぐために自分にできることについて自らの考えを持ち、説明できるとともに、他者の意見に耳を傾けられる。

授業計画

1. ガイダンス 科目のねらいと概要
2. 憲法の三大原理と国民主権
3. 平和主義
4. 戦争の放棄
5. 基本的人権① 幸福追求と自己決定
6. 基本的人権② 法の下での平等
7. 基本的人権③ 親権と子どもの人権
8. 基本的人権④ 思想・良心・信教の自由
9. 基本的人権⑤ 表現の自由
10. 基本的人権⑥ 人身の自由
11. 基本的人権⑦ 生存権
12. 基本的人権⑧ 女性の貧困
13. 統治機構① 権力分立の原則、国会、選挙制度
14. 統治機構② 内閣
15. 統治機構③ 裁判所

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(90 分) ・事前課題が出された場合は、必ず取り組んだうえで授業に臨むこと。(60 分) ・授業後の事後課題(小レポート)が出された場合は、必ず取り組み提出すること。(60 分)

テキスト

・初宿正典ほか編『目で見える憲法【第5版】』、有斐閣、2018年。

参考書・参考資料等

・『小六法』(解説教育六法編集委員会編、『解説 教育六法 2021年版』,三省堂など) ・他は授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

試験(60%)、小テスト・小レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ・ 現代の平和な日本社会を作るために努力してきた先人たちの取り組みを知っている。 ・ 基本的人権の重要性を理解している。
- (B) (C)に加えて、 ・ 主権者として、平和な社会を引き継ぐために自分にできることについて自らの考えを持っている。
- (A) (B)の内容を、自分の言葉でわかりやすく説明できる。
- (S) (A)に加えて、 ・ 主権者として必要な「社会をみる眼」や人権感覚を身につけている。 ・ 他者の意見に耳を傾けられる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、次回授業の冒頭でフィードバックを行う。

その他

・授業時に、学生間でのディスカッション、グループワークを行う。 ・必要に応じて、ICTを活用した授業を展開することがある(ノートPCまたはタブレット端末を使用する場合がある)。

科目名	情報と教育						学 期	後期 4 ターム	
副 題	—				授業 方法	演習	担当者	広瀬勝則	
ナンバ リ ン グ	K1-13-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

インターネットやメール、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業時においても大切な要素の一つである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやスキャナーなど、コンピュータの周辺機器を扱う能力も必要とされるようになった。本科目では具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力が付くよう構成されている。

次の「各回の授業テーマ・内容」に示した内容を学習し、ワード・エクセル・パワーポイントの持つそれぞれの基本機能を習得し、専門分野への応用ができる技能を身につける。

授業の到達目標

一人一台のコンピュータを使用して、実習形式でさまざまな操作技術の習得しながら、操作の仕組みや背景を理解するといった、総合的な情報リテラシーの獲得を目指す。授業では、以下の2点を到達目標とする。(1) 幼児・児童の興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児や児童の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(2) 幼児や児童の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。

授業計画

1. パソコンの起動と終了、ウインドウの操作、ファイルやフォルダの管理。タッチタイピング練習。
2. ワード：Word2016の基礎知識。入力のいろいろ(入力・文書編集)。
3. ワード：体裁を整える(ページ設定・文書の書式設定)。
4. ワード：表を作成する(表の挿入、表のレイアウト変更、表の書式設定、段落罫線の設定)。
5. ワード：ビジュアルの文書(1)(ワードアートの挿入と編集、図形の描画と編集、画像の挿入と編集)。
6. ワード：ビジュアルの文書(2)「園だより」の作成。
7. エクセル：Excel2016の起動、データの入力(表示形式、フォントの書式設定、行や列の編集)。
8. エクセル：計算式の入力(式の入力、オートフィル機能、オートSUM、相対参照と絶対参照)。
9. エクセル：関数の利用とグラフの作成。
10. エクセル：データベースの利用(並べ替え、フィルターによる抽出)。
11. パワーポイント：PowerPoint2016の起動と終了。簡単なプレゼンテーションの作成。
12. パワーポイント：オブジェクトの挿入(ワードアート、画像、図形、表、テキストボックス等)。
13. パワーポイント：Excelの利用(Excelで表とグラフを作成、Excelグラフの取り込み)。
14. パワーポイント：効果的なプレゼンテーションにする(画面切り替え、スライドショー、アニメーション)。
15. パワーポイント：童話童話の作成

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、タッチタイピングの練習をしておくこと(60分) ・授業後に毎回宿題を課すので、次回に提出すること(90分)

テキスト

『ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシーOffice2016対応』実教出版株式会社 定価(本体600円+税)

参考書・参考資料等

『よくわかる Word 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価2,200円(税込) 『よくわかる Excel 2016 基礎』富士通エフ・オー・エム株式会社 定価2,200円(税込)

学生に対する評価

小テスト(30%)、課題(60%)、発表(10%)。授業態度も重視する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ワードプロソフトを用い、簡単なビジネス文書が作成できる。表計算ソフトを用い、簡単な計算や表が作成できる。
- (B) ワードプロソフトを用い、簡単な図表入りのビジネス文書が作成できる。表計算ソフトを用い、簡単な関数やグラフが作成できる。
- (A) ワードプロソフトを用い、見本とおりの図表入りの文書が作成できる。表計算ソフトを用い、目的に応じた関数やグラフを選択できる。
- (S) ワードプロソフトを用い、図表入りの文書を自由に作成できる。表計算ソフトを用い、関数やグラフを自由に作成できる。プレゼンテーションソフトで自由に発表できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された課題は、添削し次回授業時に返却する。

その他

・グループ分けによるメンバー間での「教え合い」。 ・グループ・ワーク課題の実施。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。

科目名	教育原理						学 期	後期 4 ターム	
副 題	—				授業 方法	講義	担当者	岡部美香/ 曾我部和馬	
ナンバ リ ン グ	K1-17-002	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【授業のテーマ】教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。

【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。

授業の到達目標

【到達目標】 ○教育に関わる基本的な概念を学び、自らの言葉で具体的に説明できる。 ○多様な教育の理念や思想が、どのような歴史的背景のもと現れてきたのかを理解している。 ○現代社会における様々な教育課題やその解決策について、多角的に考察できる。

授業計画

1. イントロダクション——教育の原理を学ぶ意義
2. 「教える」とは何か——人間形成と教育
3. 「子ども」の誕生と変容
4. 西洋における教育の歴史と思想①——哲学・キリスト教と教育
5. 西洋における教育の歴史と思想②——ルネサンス・市民革命と教育
6. 西洋における教育の歴史と思想③——近現代の学校教育の成立
7. 西洋における教育の歴史と思想④——科学・ポストモダン時代における教育
8. 日本における教育の歴史と思想①——近代以前の教育
9. 日本における教育の歴史と思想②——近代学校の成立
10. 教育評価の歴史と思想——教育評価と学力観の変遷
11. 教育とメディア——学習理論と学習指導の形態
12. 現代社会と教育①——多文化教育
13. 現代社会と教育②——インクルーシブ教育
14. 現代社会と教育③——子どもの貧困
15. 授業のまとめと確認

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】次回授業に関するテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく (60 分)。【復習】毎回授業で扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えておく (60 分)。その他は授業中に別途指示する。

テキスト

岡部美香 (編著)『子どもと教育の未来を考えるⅡ』北樹出版、2017 年 その他、適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

古谷恵太 (編著)『教育の哲学・歴史』学文社、2017 年

学生に対する評価

小レポート (40%)・試験 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育に関わる基本的な理念や思想を理解している。
 (B) 教育に関わる理念や思想を、自らの言葉で説明できる。
 (A) 教育に関わる理念や思想を、現代的課題に結びつけられる。
 (S) 教育に関わる理念や思想の理解をもとに、現代的課題について多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートについては、毎回次の授業時にフィードバックを行う。最終授業で試験の総評を行う。

その他

グループ・ディスカッションを行う科目である。

科目名	教職入門							学 期	後期 4 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	今西幸蔵	
ナンバ リ ン グ	K1-17-003	実務経験 の有無	有	関連 DP	1		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【授業のテーマ】教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。

授業の到達目標

この授業では、講義をとおして実際の教育行政や教育現場の様子を知り、教員としての基礎的な資質を高めることをめざす。学校現場では、多様な教育活動が求められているため、教員としてのあり方や指導の仕方について、個人としてだけでなくチーム学校として対応していかなければならないことを学ぶ。また、学校が社会から期待されており、それに応えるべく教員の役割について実例を取り上げて解説するので、それを学ぶことによって自ら教員としての意識と意欲を高めてほしい。

授業計画

1. 教職課程と教員免許制度
2. 教職の意義と教員
3. 教育行政と教員採用の現状【授業内課題1】教員の身分について
4. 教員と校務
5. 教員と教材研究
6. 教員の諸権利と義務【授業内課題2】教員の仕事の内容と教材研究
7. 子ども文化と子ども理解
8. 子どものいのちと安全を守る教育【授業内課題3】子どもをどう理解したか
9. 児童・生徒指導のあり方、進め方とチーム学校づくり
10. 教員とサービス・研修制度
11. 教員に問われていること、求められていること【授業内課題4】良い先生とは
12. 教員に必要な資質や能力
13. 地域社会と学校の協働化【期末レポート】地域社会と学校とがどうつながるべきか
14. 教員と家庭・地域社会との関わり、コミュニティスクールの進め方
15. 過去と未来の学校

準備学習(予習・復習)・時間

1. 事前学習として、前時に配付された授業レジュメをよく読み、簡単な記入を行うだけでなく、キーワードについてその意味や概念を調べておく。
2. 事後学習として、適宜、授業の振り返りを目的とした小レポートを仕上げる。

テキスト

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識（三訂版）』八千代出版

参考書・参考資料等

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法 2021年版』三省堂、古川治・今西幸蔵他『教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房、下村哲夫『先生の条件』学陽書房

学生に対する評価

授業内課題（80%）、期末レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教職とはどのような仕事であり、学校が果たす役割が何かという基本事項を知る。そのことをふまえて、日本の教育に対する理解を進めるようになる。
- (B) 教職に意欲や関心を持ち、教員になろうとする気持ちを持つ。さらに、教員として必要とされる基礎的知識とスキルを身につけようとする。
- (A) 教員になりたいとする意欲が生まれ、そのための力を身につけようとする。教員としての具体的なスキルや質の高い知識を獲得することについて考えるようになる。
- (S) 教員になりたいとする強い意志が見られ、教職課程学習に対して積極的な姿勢を示すようになる。質の高い教員をめざして、自己研鑽に励むようになる。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した際には、次の講義において解説を実施し、振り返りと知識やスキルの定着を図る。

その他

1. 教職課程プログラムの最初の科目であり、先ずは「教職」についての基本的理解に努め、その上で、教員になることについて考えてほしい。
2. 配付する授業レジュメは、授業の概要を理解する上で重要な内容を示しているのので、読み解くことによって何を学ぶのかを理解しておく必要がある。
3. アクティブラーニングであるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ジグソー法などを取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校及び高等学校教員及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して教職を志望する学生への対応に生かす。また、他大学の教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	国語科内容論							学 期	前期 2 ターム
副 題	—					授業 方法	講義	担当者	村尾聡
ナンバ リ ン グ	K1-20-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。国語科には「詩、物語、小説などの文学教材」「伝統的な言語文化である俳句、短歌」「説明文（論説文）」「作文教育」「読書指導」などがある。講義は教員自らが文学教材、説明文などを「模擬授業形式（学生参加型）」で講義する。

授業の到達目標

1) 学習指導要領に示された国語科における国語教育の内容を理解する。 2) 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、伝統的な言語文化と国語の特質」における具体的な指導内容について理解する。

授業計画

1. 学習指導要領国語科の学力観と教育内容
2. 詩教材、低学年
3. 詩教材、中・高学年
4. 物語教材、低学年
5. 物語教材、中・高学年
6. 説明文教材、低学年
7. 説明文教材、中・高学年
8. 俳句教材
9. 短歌教材
10. 絵本
11. 作文教育について
12. 読書指導について
13. 国語科教育のその他の教育内容について
14. 授業構想の立て方
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った内容（詩や物語をどのように分析・解釈し、どのような発問、板書で授業化するのか）について要点を整理する。文芸学、教育的認識論（ものの見方・考え方）の概念用語を復習し、覚える。

テキスト

文部科学省『学習指導要領解説 国語編』東洋館出版、平成 29 年 講義時に適宜資料（テキスト）を配布

参考書・参考資料等

村尾聡『文学教育論—西郷文芸学のエデュケーションの考察—』ブイツーソリューション、2014 年 西郷竹彦監修、文芸教育研究協議会著『新国語教育事典』明治図書、2005 年

学生に対する評価

授業への積極的参加(30%) レポート(30%) 定期試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
- (A) 講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
- (S) 講義で学習した内容を文芸用語を使っている確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

パワーポイントを使って、模擬授業形式で講義を行う。学生同士の話し合い（グループワーク）の時間もとる。講義後に授業内容についての感想を書いてもらい小テストとする。授業の 3 分の 1 をこえて欠席した場合は失格とし、遅刻・早退は 2 分の 1 の欠席と計算とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 25 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	社会科内容論							学 期	後期 3 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバ リ ン グ	K1-20-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	1		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。本講義では、小学校の社会科の学習内容と学年間の系統性について理解するとともに、教科書を手掛かりとして、“社会”に関する基礎的な知識を、様々な角度から考察する。本講義を通して、受講者が持続可能な社会の在り方に関心をもてるように展開する。

授業の到達目標

(1) 社会科の学習内容について理解を深める。(2) 時事問題について基礎的な解説ができる。

授業計画

1. 授業ガイダンス 今までの社会科の学びを振り返る。
2. 新学習指導要領：主体的・対話的な深い学びをつくるためにはどうすればいいのか。
3. 教科書の性格、役割、構成。教材とは何か。
4. 社会科学学習方法にはどんなものがあるのか。
5. 第3学年の内容「身近な地域や市の様子」を題材に、パフォーマンス評価について考える。
6. 第3学年の内容「地域に見られる販売の仕事」を見方・考え方から教材研究する。
7. 第4学年の内容「都道府県の様子」 各都道府県新聞をプレゼンしあう。
8. 第4学年の内容「自然災害から人々を守る」 すぐれた実践に学ぶ。
9. 第5学年「我が国の農業・水産業における食料生産」どのように探求課題を設定すればいいのかを考える。
10. 第5学年「我が国の産業と情報の関わり」社会見学・取材を授業に生かす。
11. 第5学年「日本の国土」 災害に強い町づくりという視点からの授業づくり。
12. 第6学年「私たちの生活と政治」 模擬裁判の判断をトールミン図式でまとめる。
13. 第6学年「我が国の歴史① 江戸時代終わりまで」 史料を有効に使う授業とは。
14. 第6学年「我が国の歴史② 現代まで」 エンパシーに着目し探究課題をつくる。
15. 小テストと講評

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、次回までに調べたり提出したりする課題を提示するので、小レポートや課題として提出すること (90 分)。

テキスト

学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編 日本文教出版

参考書・参考資料等

北俊夫他/新編 新しい社会 3～6/東京書籍

学生に対する評価

レポート [作品も含む] (30%)、小テスト (20%)、授業でのワークシート記述 (30%) と積極的参加度・発表 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) これまで受けてきた社会科の学びを振り返ることができる。学習指導要領の内容 (求められる学び、教科目標、教科内容など) が理解できる。
- (B) 自分の社会科の学びを振り返るとともに、自分の知らない学習方法も理解し幅を広げることができている。また、学習指導要領の内容を理解し、学習課題を考えることができる。
- (A) 自分の社会科の学びを振り返るとともに、自分の知らない学習方法を理解し活かそうとしている。また、学習指導要領の内容を理解し、指導案として表現できている。
- (S) 自分の社会科の学びを振り返るとともに、自分の知らない学習方法を理解し活かしている。また、学習指導要領の内容を理解し、模擬授業 (導入部分) として表現できている

課題に対するフィードバックの方法

・授業での振り返りワークシート (提出された課題も) に書いた疑問・意見については、コメントを書き、個々にフィードバックするとともに、全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

その他

・現学習指導要領では、「主体的・対話的な深い学び」が求められている。特に、社会科はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法がこれまで多く取り入れられてきた。それを学ぶためにも、授業では、PBL、グループディスカッション、グループ内プレゼン、ゲームシミュレーションなどを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が、その経験を活かして、子どもが意欲的に学ぶ授業づくりができるように指導する。そのために、まず、自分たちが学生時代に受けてきた授業を振り返る。また、カリキュラムや単元・授業の計画、単元のトピックで何ができるのかを、「学習指導要領」「子どもの現状」「学問の研究成果」「社会の現状」を踏まえて、具体的な単元計画や授業案の形で表現できるよう指導する。

科目名	理科内容論							学 期	前期 2 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	児島昌雄	
ナンバ リ ン グ	K1-20-003	実務経験 の有無	無	関連 DP	1		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

小学校理科の目的・内容についての理解を深め、理科の授業の基礎となる科学的知識を身につけると共に、授業の構成力を身に付ける。小学校理科の目的・内容・方法を理解すると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の教材構成ができるように学習する。また、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。

授業の到達目標

1) 小学校学習指導要領に定められた、理科の「目的・内容」を理解することができる。 2) 小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。 3) 「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。

授業計画

1. 授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察
2. 小学校3年生理科「風とゴムの力の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
3. 小学校3年生理科「身の回りの生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
4. 小学校4年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
5. 小学校4年生理科「空気と水の性質」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
6. 小学校4年生理科「季節と生物」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
7. 小学校4年生理科「電流の働き」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
8. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
9. 小学校5年生理科「植物の発芽、成長、結実」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
10. 小学校5年生理科「天気の変化」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
11. 小学校6年生理科「月と星」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
12. 小学校6年生理科「てこの規則性」内容とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 (30 分) 復習：ワークシートの考察課題 (60 分)
13. 情報機器を授業に活かす手法・指導案について 予習：情報機器等の理解 (30 分) 復習：指導案の書き方 (60 分)
14. 方向目標と到達目標 予習：各単元の内容がどこに向かうか (30 分) 復習：単元ごとの方向目標の作成 (60 分)
15. 授業のまとめと全体討論

準備学習(予習・復習)・時間

・予習として、講義の単元の内容を小学校の教科書などで確認しておくこと。 ・復習として、講義内容を学習ノートにまとめ、関連問題の復習をすること。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説理科編」

参考書・参考資料等

・「シリーズ日本型理科教育 第2巻 『子ども』はどう考えているかーとらえやすい自然認識と化学概念ー」 日置光久・星野昌治(編) 東洋館出版社 2007 年・「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定2版」 松原静郎・岩間淳子(編) オーム社 2018 年

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度(20%)、課題作成(30%)、定期試験(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校理科で学習する内容の知識がある。
- (B) 小学校理科で学習する内容の知識と関連問題を解くことができる。
- (A) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができる。
- (S) 小学校理科で学習する内容の知識を関連問題を解き、教材開発ができると共に対話的・主体的な深い学びになるように指導できる。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの記述や疑問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

関連項目の疑問、理解について日常の生活の中で科学的(理学的)に思考する。天気、動植物など絶えず「なぜなんだろう?」「これは何?」という探求心をもつこと。疑問はまず、自ら考えた後に書籍やweb等で調べ課題解決をすること。

科目名	音楽科内容論						学 期	前期 1 ターム	
副 題	—					授業 方法	演習	担当者	植田恵理子
ナンバ リ ン グ	K1-20-004	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。

授業の到達目標

小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。即興的に伴奏を付けることができる。小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。

授業計画

1. 音楽科の目標と内容、わらべうた遊び（1）
2. わらべうた遊び（2）
3. 音楽と身体表現
4. オルフ・シュールベルク
5. コダーイ・システム
6. 音楽づくり
7. 歌唱（1）小学校歌唱共通教材
8. 歌唱（2）合唱
9. 器楽（1）リコーダー
10. 器楽（2）器楽合奏
11. 鑑賞
12. 指揮と伴奏
13. 実技テスト（1）弾き歌い（コードを使った簡易伴奏で）
14. 実技テスト（2）弾き歌い（伴奏譜で）
15. 子どもの発達と音楽科教育について

準備学習(予習・復習)・時間

・授業内発表、グループワークでは、毎回の実践内容を振り返り、今後、どのような音楽的技量を身につける必要があるかを確認する。(90 分) ・課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表、ワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』（改訂版）音楽之友社（※「音楽科指導法」で同じ教科書を使用する）
「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説（音楽科）」(平成29年6月 文部科学省)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

まとめのレポート(40%)、実技テスト(40%)、授業への参加度(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 就学前・小学校の音楽活動・授業の意義と内容について基本的に理解できる。
- (B) 基本的な理解に基づき、音楽の指導を考えることができる。
- (A) 音楽の指導について、自分の意見を述べるとともに、それに必要な弾き歌いができる。
- (S) 音楽の指導について、自分の意見に基づき、指導を工夫するとともに、それに必要な弾き歌い・即興的な演奏ができる。

課題に対するフィードバックの方法

まとめのレポートについては、次の講義にて、多くの学生に役立つ点、留意点等を取り上げ、適宜解説を実施する。授業内の発表や、実技テストについては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

個人・グループワークによる音楽の活動実践を取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・保育園・幼稚園・小学校におけるイベントでの音楽表現やパフォーマンス、メディア出演、保育者・教員対象の園内・初任者研修等での講演、音楽教育雑誌の連載等、様々な活動の経験を活かし、就学前、小学校の音楽活動の基本から、そのために必要な音楽実践力について指導する。

科目名	家庭科内容論							学 期	後期 4 ターム
副 題	—					授業 方法	演習	担当者	松本歩子
ナンバ リ ン グ	K1-20-005	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。家庭科の内容を支えている衣服、食物、住居等の各領域について、基礎的な知識を習得し、小学校家庭科の授業構成及び実践ができる能力をつけることを目標とする。

授業の到達目標

・小学校家庭科の各領域の内容について、実際の家庭科教科書（５・６年）を参照しながら、基礎知識と応用力を習得する。 ・各領域の基本的な考え方、内容の深め方、授業構成の仕方などを理解する。

授業計画

1. 小学校家庭科の理念・目的・学習内容
2. 家族・家庭生活-家庭生活と仕事
3. 食生活-食事の役割
4. 食生活-調理の基礎
5. 食生活-栄養を考えた食事
6. 食生活-米飯および味噌汁の調理
7. 衣生活-衣服の働きと着用
8. 衣生活-衣服の手入れ
9. 衣生活-役立つ物の製作（手縫い）
10. 衣生活-役立つ物の製作（ミシン）
11. 住生活-住まい方の工夫
12. 住生活-整理・整頓
13. 消費生活
14. 家庭生活と環境
15. 家族・家庭生活-家族や近隣の人々との関わり

準備学習(予習・復習)・時間

授業後にテキスト・資料をもとに復習し確実な理解を図るとともに、自らの考えを小レポートにまとめること（60分） 調理・被服製作に当たっては授業内での指示に従い、グループで話し合うなど準備を計画的に進めること（60分）

テキスト

『小学校学習指導要領解説 家庭編』（文部科学省）、文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』開隆堂

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『小学校家庭科教育法』大竹美登利他編著 建帛社

学生に対する評価

授業への積極的参加 50%、期末筆記試験 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、課題に取り組んでいる。
- (B) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用して課題に取り組んでいる。
- (A) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業で学んだ知識を活用するとともに、自らの考えを持って工夫して課題に取り組んでいる。
- (S) 小学校家庭科の各領域の内容及び授業構成の仕方についての基本を理解し、授業の学びだけでなく自ら学びを深め考察したうえで工夫して課題に取り組んでいる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワーク及び調理実習・被服実習を行う科目である。

科目名	初等英語科内容論							学 期	前期 1 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバ リ ン グ	K1-20-006	実務経験 の有無	有	関連 DP	1		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

小学校英語教育のねらいや内容等に関する基礎的な理解と、指導者としての英語能力を身につけることを目的とする。新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解するとともに、指導者としての英語能力の向上を目指す。

授業の到達目標

1. 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 2. 新学習指導要領における外国語の改定趣旨と目標を理解する。 3. 初等英語科の内容・評価を理解し、指導者としての英語能力を高める。

授業計画

1. イントロダクション（講義のねらいと進め方、評価の仕方）
2. 第二言語習得とは何か、脳科学と教育学の観点から
3. 学習指導要領における4技能5領域についてと、最近の研究報告について
4. 英語の音声（聞くこと・話すこと）について ーweb教材を使ってー
5. 英語の文字（読むこと・書くこと）
6. 英語の綴りと音声（フォニックスについて）
7. 英米の児童文学（マザーグースや童話）について
8. 異文化交流と言語コミュニケーションについて
9. 国際理解と英語教育
10. バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション
11. グループやペア等の学習形態とその効果について
12. 英語教材の内容と構成
13. 小学校における英語での発表について
14. グループ討論 小学校英語教育を考える
15. 全体のまとめ 豊かな初等英語教育を目指して

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを予め読んでおき、専門用語を理解しておくこと。(90分) 事後学習として授業の内容をまとめ、提出または発表ができるように準備をしておくこと。(90分)

テキスト

・文部科学省編『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説外国語活動・外国語編』2018年 ・金森強『小学校英語科教育法ー理論と実践ー』、成美堂、2019年 ・配布プリント

参考書・参考資料等

『Here We Go!5』(光村図書)、『Here We Go!6』(光村図書)、 『Let's Try! 1』(文部科学省)、『Let's Try!2』(文部科学省)、

学生に対する評価

毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を理解することができる。
- (B) 小学校英語教育に関する基礎的な用語を説明することができる。
- (A) 小学校英語教育の現状や課題について、論理的に自分の言葉で説明することができる。
- (S) 小学校英語教育の現状や課題を論理的に説明し、さらに英語で授業を行うための英語力を身につけることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・講義についての質問は、授業内、レポートや試験等の課題については次時にフィードバックを行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・学生による模擬授業やICTを取り入れた科目である。・初等英語教育の実践等、内容により英語で講義を行う場面がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・先進的な初等英語教育を提供する私立小学校の英語科主任としての経験や指導技術を活かし、シラバスに沿って段階的に紹介する。そのため受講生には初等英語教育の理論と実践の両側面を連携させながら、講義を理解し、指導に必要な英語力も身につける講座である。

科目名	音楽 I (表現技法)						学 期	後期 3 ターム	
副 題	—				授業 方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバ リ ン グ	K1-21-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校・幼稚園・保育所において子供たちと接するとき、音楽は欠かせないものである。
音楽を通して子供たちと楽しい時間を共有するためには、然るべき音楽能力が必要となってくる。実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じて、音楽の基礎を身につける。
事前のアンケートにより、音楽 I (表現技法) は音楽初学者を対象とし、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。授業の前半では声楽実技、後半はピアノの実技をおこなう。声楽分野では発声法を基礎から学び、練習曲（パノフカ 24 の練習曲）や唱歌を用いて楽譜を読んで歌うことに慣れ、また、簡単な二声の合唱曲に取りくむ。ピアノでは各自の能力に合わせて、バーナム・バイエル・ブルグミュラー24 の練習曲などの演奏に取り組む。

授業の到達目標

音楽理論：基礎的な楽典知識を身につけ、楽譜を正確に読むことができる。 声楽：正しい発声法および正確な音程で歌うことができる。 ピアノ：ごく簡単なピアノ曲を初見演奏できる。

授業計画

1. 発声法 1 / ピアノ演奏の基礎
2. 発声法 2 / 課題曲 1
3. 発声法 3 / 課題曲 2
4. 練習曲 1 / 課題曲 3
5. 練習曲 2 / 課題曲 4
6. 練習曲 3 / 課題曲 5
7. 練習曲 4 / 課題曲 6
8. 練習曲 5 / ピアノ小テスト 1
9. 唱歌 1 / 課題曲 7
10. 唱歌 2 / 課題曲 8
11. 唱歌 3 / 課題曲 9
12. 唱歌 4 / 課題曲 10
13. 唱歌 5 / 課題曲 11
14. 唱歌 6 / 課題曲 12
15. 歌唱小テスト 1 / ピアノ小テスト 2

準備学習(予習・復習)・時間

ピアノや声楽の演奏技術上達のためには、日々の練習は欠かせない。 ・事前学修として、次回の課題曲の譜読みをする（40 分）。事前学修として、次回の課題曲を毎日練習すること（140 分）。

テキスト

パノフカ 24 の練習曲、バーナムピアノテクニック 1（音楽之友社）、バイエルピアノ教則本（全音出版）、ブルグミュラー24 練習曲（全音出版）

参考書・参考資料等

マイ・レパートリー（ヤマハミュージック）

学生に対する評価

授業への取り組み（30%）、ピアノ小テスト（35%）、歌唱小テスト（35%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ピアノ演奏や歌唱によって、音楽の楽しさを表現できる。
- (B) 楽譜を読む力があり、簡単なピアノ曲や簡単な唱歌を、音楽性豊かに演奏できる。
- (A) 音楽理論を理解し、簡単なピアノ曲を正しく弾け、良い発声法で歌える。
- (S) 楽譜を理解し、簡単なピアノの曲が弾け、正しい音程で歌える。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは、毎回の授業でおこなう。

その他

ピアノおよび歌唱の練習を毎日すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。

科目名	幼児と健康								学 期	前期 2 ターム
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	青木宏樹	
ナンバ リ ン グ	K1-21-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	3		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。また幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることの大切さを理解する。

授業の到達目標

幼児期の健康について、運動遊びや運動指針を深く理解し、現在の子どもを取り巻く生活習慣と健康課題について深く理解することができる。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明
2. 幼児の「健康」についての目的と内容の理解
3. 幼児の体と発育・発達と現在の健康課題について
4. 幼児の心の発達及び生活習慣について
5. 幼児の身体の発達と運動能力について（健康なところと体を育む保育）
6. 幼児の身体の発達と運動能力について（幼児の動機付けや意欲）
7. 幼児の身体の発達と運動能力について（幼児理解と保育の視点）
8. 幼児の安全について
9. 幼児の病気(含感染症等)・ケガについて
10. 保育現場における応急処置の基礎及び病気の予防
11. 0～2 歳児の生活について
12. 0～2 歳児の動作について
13. 3～5 歳児の生活について
14. 3～5 歳児の動作について
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前にシラバスを読んでおく。学習した内容を踏まえて、ポイントを各自で整理する。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方（姿勢、態度）(20%) レポート提出(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習内容を理解することができる。
- (B) グループ学習等の活動を通して主体的に行動することができる。
- (A) 現在の幼児の健康課題について説明することができる。
- (S) 幼児が健康を獲得するための方法を提案することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎回出席をとる。テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッション等を行うことがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

幼稚園教諭の経験をいかして、幼児の発育発達の特性や幼児の健康課題等を講義する。

科目名	幼児と人間関係							学 期	後期 3 ターム	
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	吉次豊見	
ナンバ リ ン グ	K1-21-003	実務経験 の有無	有	関連 DP	1. 2		単位数	2	他	一

授業の目的と概要

人との関わりに関する領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、幼児期の人間関係の発達や特性や子どもの人間関係にかかわる現代社会の状況をふまえ、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養うための幼稚園教育内容及び援助について理解する。本講義では、幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解し、教育内容の構成について学ぶ。具体的には、まず、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。その際、子どもを取り巻く社会の状況（縮小する家族、母親の就労、変化する生活環境など）を踏まえて理解できるようにする。次に、それぞれの年齢での子どもの発達がどのようなものか、教師・保育者はどのように一人ひとりに関わって人との関わりを促していけばいいのかを学習していく。さらに、自立心、共感性、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力などを育成するために、どのような支援をしていけばいいのかを、事例を使って、具体的に考えていけるようにする。最後に、人間関係の育ちを育む環境づくりについて考察できるようにする。

授業の到達目標

1) 幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいおよび内容について理解する。2) 子どもを取りまく社会の状況に関心を持ち理解するとともに、改善の方策を考える。3) 幼児期の人間関係の発達の特性を事例から理解し、特性をふまえた幼稚園教育内容および方法について考察できる。4) 自立心、共感性、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力を培う指導・援助方法及び人とのかかわりで気になる子どもへの支援方法について考える。5) 子どもたちを取り巻く人間関係（保護者と保育者、保護者同士、保育者同士、地域など）を豊かにするため、家庭や地域社会との連携を深める大切さを理解する。

授業計画

1. 領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の取り扱い
2. 子どもを取り巻く社会の状況について
3. 「非認知能力」とは何か。マシュマロテストから考える
4. 3 歳児の遊びと人間関係、子どもの考えの広がり
5. 4 歳児の遊びと人間関係 生活を通して学ぶ
6. 5 歳児の遊びと人間関係 5 歳という立場とその発達
7. 子どもの自立心をどう育むか。自立心につながる絵本教材の活用
8. 子どもたちのいざこざ・けんかなどのトラブル 事例研究を通して学ぶ①
9. 子どもの遊びや生活に見られる共感や思いやりとは。事例研究を通して学ぶ②
10. 幼児期に育てたい道徳性・規範意識の芽生え、ルールやマナーとの関連性に視点をおいて：事例研究を通して学ぶ③
11. 個と集団の育ち、幼稚園における評価の考え方
12. コミュニケーションの理論とコミュニケーション能力を育むための関わりについて
13. 気になる子どもとのかかわり、多様な文化的背景に対応できるかかわり方の理解
14. 子どもを取り巻く人間関係 保護者との信頼関係づくり、同僚との関係、チーム力、子育て支援ネットワークの広がり
15. 幼保小の連携、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

各授業までに保育所保育指針と幼稚園教育要領等の人間関係の項目や指示した資料について読んでおくこと。 また授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること(60 分)

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

レポート(40%)、小テスト(20%)、発表(10%)、授業でのワークシート記述(20%)と積極的参加度(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 乳幼児期の発達と人間関係の繋がりが理解できている。
- (B) 幼稚園教育要領、保育所保育指針等示された、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。
- (A) 子どもたちの仲間関係や、保育者・地域の人々との人間関係を育てる保育実践について具体的な場面から構想できる。
- (S) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を理解し、具体的な指導場面を想定しつつ保育を構想していく力がある。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された課題やレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・公立幼稚園教諭として 12 年間の勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、理論のみならず保育現場の実際や子どもたちの姿、保育者のあり方など具体的な実践事例をふまえ指導する。

科目名	地域体験基礎							学 期	前期 1 ターム
副 題	—				授業 方法	講義	担当者	奥田修一郎	
ナンバ リ ン グ	K1-17-004	実務経験 の有無	有	関連 DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。授業は、課題解決型の形式で行い、調査、グループ討論やプレゼンなど、学習者主体の講義となる。

授業の到達目標

地域体験の意味を、資質・能力形成と合わせて考える。(1)連携団体の特徴、地域の課題等を把握し、地域での活動のあり方を知る。(2)地域活動について学ぶことを通して、自らの成長についても振り返ることができる。

授業計画

- オリエンテーション(地域体験の内容、進め方、学習の意味)
- 教員としての資質・能力を探る(学習指導要領の「学びに向かう力」とは)
- 「学びに向かう力」と非認知的能力
- フィールドワークと非認知的能力
- 地域で活動する意味
- 地域の方との対話(マイスターと共に)
- 地域の課題と私たち(グループ調査活動)
- 地域の課題と私たち(調査結果発表と討論)
- 連携団体の特徴① 観光農園
- 連携団体の特徴② 里山 NPO
- 連携団体の特徴③ 馬術クラブ
- 連携団体の特徴④ 森林組合
- 連携団体の特徴⑤ 地域まちづくり活動
- 私たちは地域活動をどうすすめるか(グループ討論)
- まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

・課題について、取材・調査・体験したことをもとにまとめ、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、最終レポートにまとめられるように準備しておく(90)。
・地域調査に出かけ、グループで調査結果をまとめ、発表のための準備をする。(120分)。

テキスト

資料配布

参考書・参考資料等

適宜紹介する

学生に対する評価

最終レポート(50%) 小レポート(25%) プレゼン(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・地域の課題を知り、取り組むべき課題を見付ける手法を理解する。・非認知能力とは何かを知る。
(B)・地域課題の原因・背景を考察し、説明できる。・体験と非認知能力との関係を理解する。
(A)・地域の現状と課題を理解し、自分たちのできる参加段階の企画を立てることができる。・学習活動での非認知能力育成の意義を説明できる。
(S)・より積極的な参加段階の企画を立て、外部からの意見をもらい、自分たちの企画を検討・評価し、発信できる。・非認知能力の評価の仕方を考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポート・課題については、コメントをつけ個々にフィードバックをするとともに、発展的に全体にもフィードバックし深めていくようにする。

その他

・「地域活動をどのように進めればよいか」という課題を解決していく PBL を取り入れた科目である。・グループでの調査・議論・まとめ・発表を中心に進め、討議やグループ学習を随時行うアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

コミュニティスクールの地域教育支援コーディネーターとしての勤務経験や中学校教員として校内の総合的な学習の時間を担当し、かつ地域コーディネーターの役割を担った経験を活かして、地域の現状・課題をつかみ、地域と学校がつながる上で何が大切かを理解させる。また、連携団体の活動から、真正な学びとは何かを考察し、かつ、非認知能力の育成の大切さに気づかせ、授業やこれからの生活にいかせるようにする。

科目名	科学技術と社会							学 期	後期 3 ターム
副 題	—				授業 方法	講義	担当者	岡本正志	
ナンバ リ ン グ	K1-24-001	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

科学技術の急速な発展において、今日ほど科学や技術と人間や社会との関係が問われている時代はない。AI の登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。科学技術の歴史的な発展についても触れる中で、今日と未来についても一緒に検討していきたい。

授業の到達目標

今日の科学技術について基本的な知識を学ぶとともに、社会への影響について検討する。 教育者として、科学技術と社会についてどう考えるか、調査と討論において深める。

授業計画

1. イントロダクション：100 年前に考えた現在の世界 (Yesterday' s Tomorrow)
2. 技術の発展と社会変化：ひとつの技術が世界を変えた (時計の社会史)
3. 技術の発展と社会変化：産業革命を探る
4. 19 世紀 STS 革命：科学と技術が与えた社会の変化
5. エネルギー利用の歴史を振り返る
6. 今日の科学技術と社会：エネルギーと環境
7. (調査課題) 今日の科学技術が社会に与えるインパクト
8. 課題発表と討論
9. 生命科学の発展と人間
10. 物理学の発展 光と磁気の科学から電磁気学に
11. 通信技術の発展と社会変化
12. AI の登場と社会の変化
13. (調査課題) 私たちと AI ：教育に AI はどう関わるか
14. 課題発表と討論
15. 振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：参考書などで、次の回の講義テーマについて調べておく。 事後学習：講義内容をノートにまとめ、理解できているか確認し、自らの課題を検討する。 調査課題：課題テーマについて調べまわめて、発表できるように準備する。

テキスト

資料配布

参考書・参考資料等

岡本正志編著『科学技術の歩み』建帛社

学生に対する評価

課題発表 (30%)、小レポート (20%)、定期試験 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で説明された科学技術の歴史や内容について、言葉や概念の基礎的な理解をする。
- (B) 科学技術と社会との関係について、いくつかの事例を理解し説明できる。
- (A) 科学技術と社会に関する課題を検討し、自分の意見を発表できる。
- (S) 科学技術が社会にどのような影響を及ぼしているのか理解し、それを教育にどのように活かせるか考えられる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見、小テスト等については講義内で説明、解説する。全体への振り返りは最後の授業で行う。

その他

課題発表やグループワーク、討論など、アクティブラーニング形式で行う。

科目名	植物栽培の基本							学 期	前期 1 ターム
副 題	—					授業 方法	講義	担当者	竹田義
ナンバ リ ン グ	K1-24-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。植物の生態、植物と環境との関係、肥料、土、水、空気、温度など生育に大きく関わる要素について解説するとともに、必要に応じて、公園緑化センターでの実技も行う。

授業の到達目標

・地球環境における植物の役割、循環型社会を維持する上で生態系保全の重要性について理解し、子どもたちに緑の大切さについて説明できるようになる。 ・社会生活の中で、植物と人間の関わり、多面的な利用について知ることによって植物についての理解が深まる。 ・栽培に必要な基礎知識、技術を習得し、科学的な知識に基づいた植物の栽培ができるようになる。 ・教育、生活や地域社会との関わりのなかで、体得した草花の栽培技術を生かせるようになる。

授業計画

1. 植物、園芸とは何か
2. 生物多様性保全と園芸
3. 野生植物と園芸植物
4. 有用植物の来歴
5. 植物の形とライフサイクル
6. 生産・消費・流通の特徴
7. 園芸植物の多面的利用
8. 植物の生育と環境
9. 植物の栽培管理と土・水・肥料
10. 植物の品種改良
11. 植物の繁殖
12. 栽培道具・設備と環境調節
13. 花壇植栽とデザイン
14. 植栽植物の種類と扱い方
15. 植物園と公園

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配布する資料の要点をレポートとして提出する。(90 分) ・毎回の授業で関連する専門用語を数例提示するので、その意味について解説して次の授業時に提出する。(90 分)

テキスト

・大川清・今西英雄・土井元章 『高等学校教科書 農業 草花』、実教出版、2012 年

参考書・参考資料等

・大川清 『花卉園芸総論』、養賢堂、1995 ・小笠原誓 『別冊 NHK 趣味の園芸 栽培上手になるビジュアル園芸用語』、NHK 出版、2005 ・岩槻邦男 『日本の植物園』、東京大学出版会、2004

学生に対する評価

試験 (50%)、レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 植物、園芸について基礎的な知識を習得している。
- (B) 植物や部位の正式な名称を理解している。
- (A) 野生植物と園芸植物の関連性について説明できる。
- (S) 植物を栽培する上での要点を、科学的根拠に基づいて説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、その都度授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立植物園において植栽設計や管理運営に従事してきた経験から、学んだことを自己の職業設計においてどう実践に結び付けるか、目的意識をもって学ぶことが如何に大切かを理解できるように指導する。

科目名	自然と人間						学 期	後期 3 ターム	
副 題	—					授業 方法	講義	担当者	那須義次
ナンバ リ ン グ	K1-24-003	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

複雑な生態系のしくみを理解し、生物多様性の重要性を学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについての理解を深める。座学だけでなく、実際に学内のフィールド調査を通じて生態系と生物多様性を理解する。河内長野市内でおこなわれている自然保護活動の実践現場の見学を通じて、自然とヒトとの関わりについて体験しながら、教育にどのように活かせるのかも考察する。

授業の到達目標

・複雑な生態系をひもとくための基礎知識が理解できる。 ・生物多様性の重要性を学ぶことができるとともに、フィールド調査の体験を通して生物多様性が理解できる。 ・自然保護活動の実例を学ぶことによって、自然とヒトとの関わりについて理解できる。

授業計画

1. 環境と生物が織りなす様々な生態系
2. 生態系の基礎用語①食物網と生態ピラミッド
3. 生態系の基礎用語②ニッチと個体群
4. 生態系の基礎用語③植物と動物の違い、生物多様性
5. 生態系の基礎用語④植物と動物の進化、生存戦略
6. フィールド調査①学内の植物と動物
7. 生態系をつくる関係①シードバンクと共生関係
8. 生態系をつくる関係②種子分散と擬態、軍拡競争
9. 生態系をつくる関係③生物の移動と分散
10. 生態系とヒト①農業と自然との関係
11. 生態系とヒト②グローバル社会と外来種問題
12. フィールド調査②学内の植物と動物
13. 生態系とヒト③生態系サービスと自然保護
14. フィールド調査③バードレスキュー活動の見学
15. まとめと考察

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次のテキストの範囲を読み、専門用語等の意味を理解し、図書やホームページを通して関連分野の予備知識を得ておくこと (90 分)、事後学習として授業の内容について整理しておくこと (90 分)。

テキスト

鷲谷いづみ著『新版絵でわかる生態系のしくみ』(講談社、2018 年) その他、テーマに応じた補足資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

鷲谷いづみ著『絵でわかる生物多様性』(講談社、2017 年) 宮下直・西廣淳著『人と生態系のダイナミクス①農地・草地の歴史と未来』(朝倉書店、2019 年) 日本生態学会編『生態学入門第 2 版』(東京化学同人、2012 年) 浅間茂・中安均著『校庭の生き物ウォッチング』(全国農村教育協会、2003 年)

学生に対する評価

全体レポート (40%)、フィールド調査のレポート (3 回、各 20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生態系と生物多様性の用語を理解できている。
- (B) 生態系と生物多様性について理解し、具体的な事例とともに自分の言葉で表現できる。
- (A) 生態系と生物多様性を理解し、それらについて論理的かつ小学生にもわかる平易な文章で具体的に表現できる。
- (S) 生態系と生物多様性を理解し、人間との関わりについて具体例を元に小学生の授業でいかに取り組むかを提言できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。 ・提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却し、最終授業で全体に対するフィードバックをおこなう。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大阪府農業大学校講師としての勤務経験を活かし、昆虫分類学および野鳥と昆虫との共生関係の研究を進めている教員が、その知識および経験を踏まえ生態系や生物多様性について具体的に講義するとともに、フィールド調査を通じて理解させる。

科目名	日本文化						学 期	前期 1 ターム	
副 題	—				授業 方法	講義	担当者	浅井雅弘	
ナンバ リ ン グ	K1-02-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本文化(仏画)について、その意味や歴史との関係等を踏まえた講義を行い、仏画を通して仏教や日本の歴史とのかかわりについて理解を深め、実際に仏画を描き、写仏を行い、体験して学ぶことで、仏教の修行方法としての側面である、困難に打ち勝ち目標に向かう為の仏教的解決方法のひとつとしての仏画・写仏の活用方法を修得する。

授業の到達目標

絵写経・写仏について理解し、説明及び実施が出来る。不安や不満。解決すべき問題の壁に当たった時や自らの考えをまとめるために、心身を落ち着かせる方法として、古来より行われてきた写仏の有効性について理解を深める。また、心について向き合う時間をつくる事の大切さを学習する。

授業計画

1. 日本における仏画の歴史（仏教伝来～奈良白鳳時代）実習：カーボン紙づくり
2. 絵写経・写仏の活用方法。実習：絵写経
3. 日本における仏画の歴史（平安時代）。実習：色紙に写仏。
4. 目で覚える彩色の仕方。和紙に仏画を描く。
5. 日本における仏画の歴史（鎌倉室町時代）。実習：写仏と彩色。
6. 写仏と彩色 作品発表。
7. 日本における仏画の歴史（江戸時代）。実習：F6 色紙に仏画下図を描く。
8. 実習：F6 色紙に仏画を描く。
9. 日本における仏画の歴史（近代）。実習：仏画に彩色する。
10. 実習：仏画に彩色する。
11. 実習：仏画に彩色する。
12. 実習：仏画に彩色する。作品発表
13. 課題であるオリジナル絵写経の制作。
14. 課題であるオリジナルの絵写経の制作・提出。
15. 課題であるオリジナルの絵写経の発表。

準備学習(予習・復習)・時間

・課題について調べて、作品制作および発表の準備をする（30 分） ・実習においては、毎回の内容を振り返り、今後どのような技量が必要かを、確認する（60 分） ・2 回に 1 度、実習内容についてのレポートを提出する。（6 0 分）

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

中村涼應 中村幸真 初めて描く仏画入門 淡水ムックゆうシリーズ 週末の手習いー7

学生に対する評価

・作品（40％）・レポート（30％）・発表（30％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 絵写経・写仏を描くことができる。
 (B) 絵写経・写仏の活用を理解し、描くことができる。
 (A) 絵写経・写仏の活用を理解し、技術も優れている。
 (S) 絵写経・写仏の歴史・活用法を修得し、技術も優れている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

実習を伴う科目である。 実習に必要な、筆(1 本 600 円)、面相筆(1 本 450 円)、彩色筆(450 円×2 本)は初回の授業で購入すること。その他、顔彩絵具(24 色、メーカー:吉祥、2400 円)も必要。初回授業で説明する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・二科展出品 入賞 会友経験及びグラフィックデザイン業務の経験より、自然や美の本来の美しさを見出す実習を行い、将来設計を、豊かな感性と共に考える状態を身に着ける。・仏画制作・仏画教室講師の経験より、ぶつがの知識や技術を教え技術を身につけてもらう。・寺社や一般の人々に絵写経を広める活動経験を通して心のセルフケアとしての、静かに一つのことに打ち込む時間の大切さを生徒と共有し認識させる。

科目名	文学							学 期	後期 3 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	村尾聡	
ナンバ リ ン グ	K1-20-007	実務経験 の有無	有	関連 DP	1		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

文学とは人間の真実やものごとの本質を美的に表現したものである。だからこそ、読者は文学作品からふかい思想的な解釈を発見し、自らの認識を広げ、ふかめて行くことが出来る。本科目は、小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、ふかめていくことを目的とする。

授業の到達目標

文学教育の基本的知識を身に付け、教材を分析・解釈することができる。

授業計画

1. 文学作品の読み方(学習指導要領における「文学」の位置づけ)・文学の読み方(オリエンテーション)
2. 視点論1(作者・読者・語り手・聞き手、共体験等)
3. 視点論2(視点と対象、内の目・外の目、相変移等)
4. 視点論3(形象の相関性・全一性、典型化等)、表現論(比喩、声喩、活喩、表現方法、筋等)
5. ものの見方・考え方1(教育的認識論—オリエンテーション)
6. ものの見方・考え方2(教育的認識論—低学年)
7. ものの見方・考え方3(教育的認識論—中学年)
8. ものの見方・考え方4(教育的認識論—高学年)
9. 話体・作体論1(オリエンテーション)
10. 話体・作体論2(詩)
11. 話体・作体論3(物語)
12. 話体・作体論4(啄木歌詞、その他)
13. 表現論(表現方法、呼称、喩え等)
14. 美と真実(ファンタジー、ユーモア等)
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った文芸学の理論(詩や物語をどのように分析し、どのように解釈するのか)について要点を整理し、概念用語を覚える。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、講義時に適宜資料(テキスト)を配付

参考書・参考資料等

西郷竹彦『名詩の世界 西郷文芸学入門講座』光村図書、2005 年 村尾聡『文学教育論—西郷文芸学の教育学的考察—』ブイツーソリューション、2014 年

学生に対する評価

授業への参加の積極性(10%)、小テスト(45%)、レポート(45%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義で学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 講義で学習した内容を自分の言葉で表現できている。
- (A) 講義で学習した内容を文芸用語を使って表現できている。
- (S) 講義で学習した内容を文芸用語を使つて的確に表現できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

パワーポイントを使って、模擬授業形式で講義を行う。学生同士の話し合い(グループワーク)の時間もとる。講義後に授業内容についての感想を書いてもらい小テストとする。授業の3分の1をこえて欠席した場合は失格とし、遅刻・早退は2分の1の欠席と計算とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について25年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学教育の理論をどのように生かし、実践に結びつけていくのかを指導する。

科目名	創作研究							学 期	集中
副 題	—					授業方法	演習	担当者	伊藤佳世子
ナンバリング	K1-07-002	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、英語圏の様々な文化を童話文法の視点から学び、将来教員として必要な英語力を体験的・総合的に取得するために、グループによる絵本作りや演劇という創作活動を行う。本講義の目的は、英語への理解を深めるために単に英語の 4 技能 (Reading, Listening, Writing, Speaking) 1 領域 (Interaction) の力を高めるだけでなく、小学生が英語に興味・関心を持ちモチベーションを持続させることができるようにするために、教員は何を使用し、どのようにそれを使用すべきかを考える力をつける。

授業の到達目標

童話文法の学習から英語学習の「気づき」や「理解」ができるようになること、そして絵本、紙芝居、演劇(ミュージカル)の制作や、幼稚園や小学校英語教育での実践で「発信」することができるように活動する。

授業計画

1. オリエンテーション(講義の進め方、予習、復習、成績評価について説明する)
2. 講義(絵本や紙芝居作成のための物語文法を学習する)
3. 絵本作成の基本を講義後、グループによる絵本作成
4. グループによる紙芝居作成
5. 作成した絵本と紙芝居の発表 各グループへの評価をフィードバックする
6. 作成した「絵本」を実演する
7. 作成した「紙芝居」を実演する
8. 第二言語習得とバーバルとノン・バーバルについて学習する
9. 英語学習における演劇の効果について学習する
10. グループによる演劇実演の準備 1
11. グループによる演劇実演の準備 2
12. 実演のための発音指導
13. 実演のためのリハーサルと各グループへの評価をフィードバックする
14. 小学校等で「演劇」を実演する
15. 総括とフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

集中講義時間内に進捗度に合わせて指示をする

テキスト

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価

評価はグループワークでの参加度、授業態度、実演を加味して行う。発表 3 回分(60%)、授業参加の積極性(30%)フィードバック(10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の基本的な内容を理解することができる。
- (B) グループ活動で仲間と協力を得ながらも与えられた役割を完遂することができる
- (A) グループ活動に協力的に参加し、与えられた役割を完遂することができる。
- (S) 絵本作成や演劇実演の活動に関して、グループで中心的な役割をはたすことができ、それらの作品を児童が理解できるように実演することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う

その他

絵本作成は 1 グループ 3 名編成、演劇活動は 1 グループ 5 人から 6 人で作品を完成する。

科目名	茶道							学 期	後期 4 ターム	
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	岡本文音	
ナンバ リ ン グ	K1-26-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。その上で受講生自らが茶会を企画実践し、亭主側と客側とを体験する。これらを通して、茶の湯の精神や美意識について考える。

授業の到達目標

茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようになる。

授業計画

1. 講義 茶道概説 茶事（茶会）のながれ
2. 実習 客の所作と心得 1 お茶のいただき方（薄茶）
3. 実習 客の所作と心得 2 席入りの仕方
4. 講義 茶の湯の文化 1 茶道史 茶の湯以前
5. 実習 盆略点前 1 割稽古
6. 実習 盆略点前 2 割稽古
7. 講義 茶の湯の文化 2 茶道史 草創期の茶の湯
8. 実習 盆略点前 3 割稽古
9. 実習 盆略点前 4 割稽古
10. 講義 茶の湯の文化 3 茶道具について
11. 実習 盆略点前 5 通し稽古
12. 実習 盆略点前 6 通し稽古
13. 実習 茶杓削り
14. 実習 茶会の企画と実践
15. 実習 茶会体験 初釜

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60 分) 体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60 分) 講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90 分)

テキスト

学校茶道編集委員会編 『学校茶道（初級編）』 財団法人茶道文化振興財団発行 平成 15 年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等

①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年 ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）期末試験（35%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
- (B) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
- (A) 客の所作と盆略点前を修得している
- (S) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

茶道教授者の実務経験より、学生の個人能力に合わせて教育指導をする。

科目名	書学入門(書道)						学 期	後期 3 ターム	
副 題	四国遍路の歴史と実際					授業 方法	演習	担当者	野田悟
ナンバ リ ン グ	K1-06-001	実務経験 の有無	有	関連 DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。さらに発展的に、東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論を含めた実践から焦点を当てる。本講座は基本的に古典臨書を根拠とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根拠にした指導を行う。最後に般若心経写経作品を作ることで、その理解度を確認する。テーマ：１、古代文字からの漢字思想とその実践 ２、唐代楷書：顔真卿「多寶塔碑」、褚遂良「雁塔聖教序」の臨摹及び創作

授業の到達目標

国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる書写力の向上と、授業理論・実践・指導内容の理解を目指す。さらに、発展的に芸術としての書道の悠久の歴史や楽しさを学ぶ。漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と写経作品による創作を行う。

授業計画

- 第１回：ガイダンス 表意文字としての漢字の位置
- 第２回：小学校国語科書写の学習内容の概要と評価
- 第３回：小学校国語科書写の実技と理論、指導案について
- 第４回：臨書入門 顔真卿「多寶塔碑」①（初唐の三大家と顔真卿）
- 第５回：臨書入門 顔真卿「多寶塔碑」②（唐楷とそれ以前の楷書の違い）
- 第６回：臨書入門 褚遂良「雁塔聖教序」①（唐代科挙の改革と書）
- 第７回：臨書入門 褚遂良「雁塔聖教序」②（中国哲学の神髄）
- 第８回：前半の半紙臨書作品の提出及び鑑賞
- 第９回：二つの法帖を比較臨書①（「提筆」と「按筆」並びに「字間」と「行間」）
- 第１０回：二つの法帖を比較臨書②（線條の比較と追及）
- 第１１回：自分で法帖を１つに絞り再度臨書する。
- 第１２回：自分で選択した法帖の背臨
- 第１３回：般若心経写経創作①（心経における「空」の思想について）
- 第１４回：般若心経写経創作②（願文の書式）
- 第１５回：般若心経写経創作③及び合評（異体字と「正」、「通」、「俗」）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の時間に備える。（１２０分以上） ＊課題の指示は、授業中に行う。

テキスト

・中国法書選 ４０ 顔真卿「多寶塔碑」、３４ 褚遂良「雁塔聖教序」：二玄社 ・書道字典を持っている方が望ましい。 ・写経セット〔LA26-59〕を購入の事。 ＊その他、必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『説文解字』（中華書局等）、『聾瞽指帰』・『篆隸万象名義』等（高野山大学蔵） 『新書源』（二玄社）等々 「小学校学習指導要領解説 国語」、文部科学省、H29

学生に対する評価

作品（７０％）、レポート（３０％） ・基本的に作品による評価を行う。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の結構並びに基本的な筆遣いが出来ているか。
- (B) 線がしっかりしていて、結構や余白につりあいがあるか。
- (A) 法帖を基盤とした高いレベルでの作品を作れるか。
- (S) 作品作りの上で、落款や跋文（願文も含む）を非常に高いレベルで創作できるか。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間中に毎回の課題を貼ってもらい、授業の導入部分で批評しながら、フィードバックを行う。 ・毎回の課題は作品〔レポート〕として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、毛氈、文鎮、半紙、反切は個々に準備の事〔ガイダンス時に詳しく説明する〕。・書道実技の講座として、毎回、課題が課され、授業以外での自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。課題は反切画宣紙を使用する。・休み時間のうちに全ての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。二月の学外書道展に写経用紙又は反切画宣紙による写経作品を展示する。〔表具の費用は個人で負担する。〕

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家であり、高校書道教員及び芸術系大学院講師の勤務経験を持つ教員の指導により、「書とは何か？」の原点に立ち返り講じ、実技指導する。

科目名	学校・保育現場体験Ⅰ							学 期	通年
副 題	—				授業方法	実習	担当者	今西幸蔵	
ナンバリング	K1-16-002	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校・保育現場での体験活動。活動の内容は ・授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助 ・授業における教員とのチームティーチングによる生徒の学習指導補助 ・その他、この体験の目的に即した活動・ などである。体験が深まるまでは見学や行事の手伝い、下校指導などが中心となり、経験が深まるにつれて内容が高度になる。

授業の到達目標

教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。

授業計画

1. 内容詳細
2. ①業務全般（児童・幼児の個人情報に関すること、成績に関すること、会議参加等は不可）
3. ②授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助
4. ③校外学習は参加不可（徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可）
5. ④授業における児童・幼児への学習指導補助
6. その他、この体験の目的に即した活動であり、校園長が認めるもの
7. 体験するまでの流れ
8. 4月下旬 説明会・事前指導
9. 5月中旬 体験先決定（河内長野市教育委員会・高野山大学で協議）
10. 6月中旬～ 体験開始
11. 適宜、振り返りを含む中間的な指導
12. 1月下旬 事後指導
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

1. 事前学修として、体験先の学校や保育所に関する情報収集を図り、そこで行われている教育活動の内容を知る。
2. 事後学修として、体験記録などのレポートを作成し、その内容を振り返り、得られた経験知を自分のものとする。

テキスト

資料「学校・保育体験ガイド」配布

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

教育実習に準じて、校園長、担任の評価を基に、担当教員が評価する。（100％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 実際に学校や保育の現場に触れ、そこで働いておられる人々の姿から教育や保育の意味・意義を感じ取り、職業としての現状を理解する。
- (B) 学校や保育所の現場での実習を通して、教員や保育士の仕事内容を知り、自分の将来の職業選択について考えることができるようになる。
- (A) 学校や保育所の現場を理解することから、教員や保育士に必要とされているものが何かが理解できるようになり、志望の実現のために必要とされることを学ぶ意欲を高める。
- (S) 教育や保育の現場を深く理解するとともに、教員や保育士になろうとする意欲・希望がこれまで以上に強いものになり、専門性の高い知識やスキルの習得への関心を持つ。

課題に対するフィードバックの方法

体験記録などのレポートに対して、一定の評価を与えるとともに、問題点や課題を指摘する。そのことにより体験活動の成果を深めることになる。

その他

1. 学校や保育所現場での体験活動をととして、教育や保育の意味・意義を理解して欲しい。その上で、教員・保育士としての将来の自分の姿を見つめ、そのために必要な学修に努めることを期待する。2. 実習であるので、活動自身がアクティブラーニングと一致する要素がある。プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション等を行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校・高等学校及び教育委員会事務局職員としての勤務経験があり、その経験を活用して、教員や保育士などを希望する学生を指導する。また、他大学で教員として、この科目と内容のほぼ変わらない学修活動を指導してきている。

科目名	地域体験Ⅰ							学 期	通年
副 題	—					授業方法	実習	担当者	柳原高文
ナンバリング	K1-19-001	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、1年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域社会を担っている団体での体験活動を行うことで、農業・栽培の知識・技能を習得し、気候や害虫、害獣など様々な環境での農業・栽培の工夫や技法を習得し、教育現場で活かせる力を習得し、児童に栽培の指導ができるようになる。

授業計画

1. 4月上旬 説明会・事前指導
2. 5月中旬 体験先決定
3. 6月初旬～ 体験開始
4. 8月初旬又は12月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）
7. ②農業・栽培体験（サバーファーム）
8. ③農業・栽培体験（和泉体験農園）
9. ④農業・栽培体験（花の文化園）
10. ⑤農業・栽培体験（公園緑化協会）
11. ⑥果樹・栽培体験（山口果樹園）
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として対象作物の栽培について書籍や web 利用で情報を得ておく。 ・栽培日誌を読み、先週の活動の状況を確認する。 ・活動して気付いたことなどの栽培日誌を作成し、適所に絵や写真などで記録する。

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 農業・栽培について作業ができる。
- (B) 農業・栽培について適切な作業が出来る。
- (A) 農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来る。
- (S) 農業・栽培について気候や害虫・害獣など環境変化に応じて作業が出来き、それを生徒指導に活かせる。

課題に対するフィードバックの方法

各回の栽培日誌を点検し、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の作業は体力を要するので、前日から体調管理を行うこと。作業に適した服装、持ち物の準備をすること。

科目名	地域体験Ⅱ							学 期	通年
副 題	—				授業方法	実習	担当者	松本歩子	
ナンバリング	K1-26-003	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅱは、1 年次で行い、地域体験Ⅰで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

授業の到達目標

地域活動を通して、地域社会および生活文化に関する多様な知識・技能を習得する。地域の方々と適切なコミュニケーションをとることができる。仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を身につける。

授業計画

1. 4 月上旬 説明会・事前指導
2. 5 月中旬 体験先決定
3. 6 月初旬～ 体験開始
4. 8 月初旬又は 12 月下旬 事後指導
5. 参加団体
6. ①地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）
7. ②地域活動体験（森林ボランティアトモロス）
8. ③文化活動体験（文化会館ラブラリーホール）
9. ④馬術体験（クレイン）
10. ⑤森林・木工体験（森林組合南河内支店）
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

準備学習(予習・復習)・時間

毎時間、授業後に活動の振り返りを行い、評価と今後の課題について整理し小レポートにまとめる（60 分）

テキスト

参考資料配布

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

最終レポートおよび連携団体先の評価を基に、担当教員が評価する。（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学び、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
- (B) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら課題に取り組むことができる。
- (A) 地域活動を通して地域の方から知識技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組むことができる。
- (S) 地域活動を通して地域の方から知識・技能を学びながら関係性を深めるとともに、仲間と協力しながら主体的に課題に取り組む、その学びを言語化して共有できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、コメントを付して返却する。

その他

フィールドワークを行う科目である

科目名	体育の理論と実技								学 期	後期 3 ターム
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	青木宏樹	
ナンバ リ ン グ	K1-26-004	実務経験 の有無	無	関連 DP	2		単位数	2	他	一

授業の目的と概要

「運動不足」「体力の低下」が問題視され、「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。

授業の到達目標

ボール運動の個人技能を身につけたり、集団(チーム)としての動きの高まりをめざしたりして取り組むことができるようにする。また、自身の体力の維持増進を図るとともに、さまざまな運動の特性を知り、運動技能の向上を図ることができるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定、簡単なボール運動を行う。
2. ドッジボール(さまざまな形式のドッジボール)
3. パスゲーム①(ドリブルを使わずに、簡単なルールで行う)
4. パスゲーム②(チームの戦術を考える)
5. バスケットボール①(3on3 バスケットボール)
6. バスケットボール②(チームの戦術を考える)
7. プレールボール①(基本技能の向上をめざす)
8. プレールボール②(チームの戦術を考える)
9. バレーボール①(基本技能の向上をめざす)
10. バレーボール②(チームの戦術を考える)
11. フラグフットボール①(攻撃と守備の人数を変えて行う)
12. フラグフットボール②(チームの戦術を考える)
13. フットサル①(基本技能の向上をめざす)
14. フットサル②(チームの戦術を考える)
15. 授業のまとめ、振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

学習した内容や運動技能等を踏まえて、ポイントを各自で整理する。

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校体育科学学習指導要領解説 体育編

学生に対する評価

・授業への積極的な参加(20%) レポート(60%) 実技能力(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことを理解することができる。
- (B) 授業内容を理解して、主体的に行動することができる。
- (A) 安全な運動方法について理解することができる。
- (S) 子どもたちに運動を教える際の留意点等を理解することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

その他

毎回出席をとる。

科目名	AIと世界							学 期	前期 1 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	広瀬勝則	
ナンバ リ ン グ	K1-13-002	実務経験 の有無	有	関連 DP	1, 5		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

インターネットやAI技術の急速な進歩が、社会に大きな影響を与えている。情報が世界をまたいで飛び交い共有化され、AIが様々な分野に進出して、従来とは異なった新たな社会が登場する。こうした Society 5.0 と名付けられる新しい社会のなかで、人類はどのようにふるまっていけば良いのか、未来社会で人間が活躍しう分野は何だろうか。本科目では、AI についての基礎的な知識を学び、AI が活躍する新たな社会における人間の役割などについて検討する。簡単な AI プログラミングの作成を通して、先端テクノロジーが日常生活に入り込んでいることを知る。

授業の到達目標

AI の誕生から現在に至るまでの歴史を理解し、現在どのような分野で AI が活用されているかを学習する。簡単な Scratch プログラミングの作成方法について習得し、AI プログラミングの基礎について学習する。AI の発達をもたらす未来の社会について考察し、将来の教育に AI がどのように活用できるかを学ぶ。

授業計画

1. AI とは（暮らしを便利に身近にする AI）
2. AI の歴史（1）（第1次 AI ブームから第2次 AI ブーム）
3. AI の歴史（2）（第3次 AI ブーム）
4. AI とビッグデータ（1）（ビッグデータの利用）
5. AI とビッグデータ（2）（機械学習とディープラーニング）
6. AI でできるようになったこと
7. 社会にはいる AI
8. AI の進化で教育はどう変わるのか
9. Scratch プログラミング（1）（キャラクターを動かす）
10. Scratch プログラミング（2）（ゲームを作成する）
11. AI プログラミングの作成（1）（AI レジの作成）
12. AI プログラミングの作成（2）（〇×クイズの作成）
13. AI についての研究レポート作成（1）（AI の歴史と暮らしの中の AI）
14. AI についての研究レポート作成（2）（AI の現状と教育への影響）
15. 研究レポート発表

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、授業内容に関連する資料を書籍やインターネットから集めておくこと（90 分）

テキスト

『しっかりと知りたい ビッグデータと AI』宇野 毅明（著）、池田亜希子（著） 丸善出版株式会社(2018 年) 定価（本体 760 円+税）

参考書・参考資料等

森川幸人『イラストで読む AI 入門』株式会社筑摩書房 2019 年発行 定価（本体価格 780+税）、小林真輔『できるたのしくやりきる Scratch3 子ども AI プログラミング入門』株式会社インプレス 定価 1,320 円（税込）

学生に対する評価

レポート（50%）、課題（30%）、発表（20%）。授業態度も重視する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) AI について基本的なことを理解している。
- (B) AI について基本的なことを理解していて、その内容について説明できる。
- (A) 暮らしの中で活用されている AI について説明できる。Scratch を使って簡単なプログラミングを作成できる。
- (S) AI の役割、人間の役割について理解し、教育への影響について論じることができる。Scratch プログラミングを使って、簡単な AI プログラミングを作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。プログラミングの質問については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・日ごろからニュースなどで触れられている AI やビッグデータについて関心を持ち、気づいたことをノートにメモしておくこと。・レポート発表には PowerPoint2016 を使用する。操作方法は授業で説明するが、「情報と教育」のテキストも参考に予習をしておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業でのアプリケーションソフト及びパッケージソフトの開発、社員へのパソコン教育、企業や大学の公式ホームページの作成と運営などの経験を持つ教員が、その経験を活かして情報処理を指導する。

科目名	世界遺産と観光							学 期	集中
副 題	一				授業方法	講義	担当者	宗田好史	
ナンバリング	K1-11-001	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

高野・吉野・熊野という“紀伊山地の三霊場と参詣道”が UNESCO の世界文化遺産に登録され 16 年がたち、高野山には今も世界の人々が訪れ、弘法大師の教えと人々の信仰に接している。旅を楽しむだけでなく、文化と歴史を尊ぶ観光の態度が、UNWTO（国連観光機関）の提唱する持続可能な観光である。この講義では、特に聖地巡礼を通じて信仰と人類の歴史を知る文化観光と教育のあり方を学ぶ。そのため、文化財保護制度を学び、国際、国内の観光の実態とその歴史を理解し、世界各地の信仰に係る世界文化遺産の数々を知り、考えるとともに、様々な問題点を掘り下げる。特に、文化遺産を取巻く各地の宗教紛争を知り、信仰が文化となり、観光がその交流を促進する可能性と、その教育的意義を探る。

授業の到達目標

世界遺産は観光資源になるという誤解を解き、観光に経済効果があるという思い込みを廃する。そのために RESAS（地域経済分析システム/内閣府）を活用し、産業連関と経済構造を把握する術を身に着ける。また、地方税収の資料から観光の経済効果を自治体財政の上で分析し、世界遺産を取巻く住民、事業者、行政関係者に正しい理解を図るための具体的説明能力を習得する。

授業計画

1. 世界遺産とは何か？世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年、文化遺産の変遷
2. ヨーロッパの文化遺産、記念物、建造物群、遺跡、そして歴史都市、文化的景観、産業遺産、無形文化遺産
3. 東アジアの文化遺産、日中韓の戦後史と文化財保護の政治的意味、世界文化遺産委員会での議論
4. 東南アジア、南アジア、アフリカ、そして中南米の世界文化遺産、キリスト教と植民地の歴史を伝える
5. 文化遺産保存の歴史と ICOMOS（国際記念物遺産会議）の取組み、国際機関、UNESCO の役割の変遷
6. 近代の文化財保護制度の発展、古社寺保存法から史蹟名勝、国宝保存法へ、近代史国際比較の視点から
7. 戦後日本の文化財保護制度、保護法制定とその後の改正、文化財の変遷、そして世界遺産条約へ
8. 世界遺産の変遷、世界遺産委員会での 1990 年代の議論から、不均衡問題、文化的多様性、真正性へ
9. 国際社会と文化遺産、国際協力と文化的権威主義、文化遺産の政治的利用、民主国家の限界、日韓の争点
10. 文化遺産と観光、戦後の日本観光史、修学旅行から世界遺産観光へ、観光行動の変化と文化遺産の消費
11. UNWTO 持続可能な観光、国際観光市場拡大と観光公害、コロナ禍とインバウンド、消滅と再生
12. 紀伊山地の霊場と参詣道、登録の取組みと登録後 16 年の軌跡、地元理解と世界の評価、将来展望
13. 信仰の世界遺産、三大宗教にみる文化遺産への対応、宗教離れへの対応、消滅可能自治体と寺院消滅
14. 観光の経済効果を知る。観光事業のビジネスモデル、地方税収から財政構造を知る、観光公害と地域政策
15. まとめ、世界遺産と観光、文化遺産による国際理解の促進と平和教育の取組み、UNESCO の教育理念を知る

準備学習(予習・復習)・時間

予習・復習のために授業日ごとに課題プリントを用意するので次の授業日までに回答、提出すること

テキスト

宗田好史『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社、2020 年 宗田好史『創造都市のための観光振興—小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社、2009 年

参考書・参考資料等

宗田好史『町家再生の論理—創造的まちづくりへの方途』学芸出版社、2009 年 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか—市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社、2012 年 宗田好史『京都観光学のススメ』、人文書院、2005 年

学生に対する評価

授業日ごとの課題と出席（50％）と最終レポート（50％）で評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 合格と認められる最低限の成績である
- (B) 合格と認められる成績である
- (A) 優れた成績である
- (S) 特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見を常に受けつけ、授業で細かく対応する。

その他

対面授業による集中講義を予定している。状況に即して、リモート講義も用意する。その場合は、ICT を活用し、より広い理解の促進を図る。特に、チャット等を活用して課題や質問、意見へのフィードバックを進める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

国際連合地域開発センター職員として、インドネシア、マレーシア、中国雲南省で文化遺産保護に携わり、その後の世界文化遺産登録を推進した。日本イコモス国内委員会理事、国際文化観光専門委員会代表として「国際文化観光憲章」（1999 年）起草に当たった。また、イタリアではアッシジ、オルチャ溪谷、マントバ等の保存管理計画策定に協力した。その後も古都京都の文化財の統括的保存管理計画策定に参加し、紀伊山地の霊場と参詣道では国土交通省専門委員として道路整備等受入環境の整備に従事、今も百舌鳥古市古墳群学術会議、彦根城登録推薦書作成学術会議等に関わっている。

科目名	身体技法(ダンス)							学 期	前期 1 ターム
副 題	—					授業 方法	実技	担当者	範衍麗
ナンバ リ ン グ	K1-17-005	実務経験 の有無	無	関連 DP	1, 2		単位数	1	他 A

授業の目的と概要

本授業では身体表現の豊かさの年齢的特徴やリズムカルな動きの発達などの知識を学ぶ。また、身近な素材を使った表現遊び、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現する遊び、リズム遊び、日本のソーラン節と河内音頭、外国のフォークダンス、ロックやサンバのようなやや早いテンポのリズムダンスを演習する。

授業の到達目標

ダンスやリズム遊び、表現遊びを体得し、身体表現の知識・技能を保育現場で活用することができる。自らの役割を理解し、積極的に行動する力を身に付ける。

授業計画

1. オリエンテーション・豊かな身体表現とは
2. 外国のフォークダンス
3. 身近な素材を使った身体表現 1 ポンポン、ストロー、傘袋などを使った身体表現
4. 身近な素材を使った身体表現 2 タオル、新聞紙、スカーフなどを使った身体表現
5. 絵本から身体表現への展開
6. 絵本から劇への展開
7. 身体表現を取り入れた伝承遊び 1 だるまさんが転んだ、はないちもんめ
8. 身体表現を取り入れた伝承遊び 2 ことろ、あぶくたつたにえたつた
9. 日本の民謡
10. 触れ合い遊び
11. 即興的な身体表現
12. リズム遊び
13. ダンスの創作 1 ダンス創作の知識や基本ステップ
14. ダンスの創作 2 グループごとにダンスを創作する
15. 創作ダンスの発表・授業の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

授業後に毎回課題を課すので、次の授業の前に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

古市久子編著『保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現』ミネルヴァ書房 2013、新リズム表現研究会編著『身体表現をたのしむあそび作品集』かもがわ出版 2018

学生に対する評価

授業参加の積極性 (40%)、授業内発表 (30%)、提出物 (20%)、創作ダンスの発表 (10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分なりに身体で表現することができる。
- (B) メンバーと協力して自分なりに身体で表現することができる。
- (A) 積極的に授業に参加し、身体で豊かに表現することができる。
- (S) 積極的に参加し、メンバーと協力して活動ができる。身体で豊かに表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークを行う科目である。20 分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。

科目名	幼児理解方法論							学 期	後期 4 ターム
副 題	－					授業 方法	演習	担当者	茂野仁美
ナンバ リ ン グ	K1-21-004	実務経験 の有無	有	関連 DP	2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

乳幼児期の発達とは生涯の中で、短期間での劇的な変化を遂げる時期である。乳幼児期の発達課題についての学びを深め、現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解について考察することを目的とする。

授業の到達目標

乳幼児期の発達課題について習熟を深める。現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解のための相談や支援の概要について理解する。

授業計画

1. 乳幼児期の発達とは
2. 人やものとの出会い
3. 愛着形成と家族の移行
4. 遊びと認知発達
5. ことばとコミュニケーション
6. 自己と情動
7. 人の心の理解と仲間関係の発達
8. 道徳性と向社会的行動
9. クラスの中での育ち
10. 保育者から見た気になる子ども（つまづきと幼児理解）
11. 気になる子どもへの関わり方（特別な配慮を要する幼児の理解）
12. 保育と発達検査・知能検査
13. 発達と保育を取り巻く社会的な変化
14. 養育者を支援する
15. まとめ 保育者の視点から発達をアセスメントすること

準備学習(予習・復習)・時間

事例を用いた演習の振り返りとして、理論と実践を結び付けられるよう、教科書をよく読むこと。

テキスト

高嶋景子・砂上史子 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

使用しない

学生に対する評価

定期試験(60%)、通常授業でのミニレポートの点数及び授業での取り組む姿勢(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 事例を読み、文章から読みとれる事象について、理解している。
- (B) 事例を読み、文章から読みとれる事象に対して、子どもとの関わりや、援助方法を考えることができる。
- (A) 事例を読み込み、文章に表れていない事象について想像し、子どもとの関わりや、援助方法を考えることができる。
- (S) 事例を深く読み込み、文章に表れていない事象について想像し、子どもとの関わりや、援助方法の意義や根拠について議論することができる。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。また、定期試験の結果から、復習すべき点についての解説を行う。

その他

ICT による、授業ごとの振り返りの提出。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

乳幼児健診の発達相談や、小学校でのスクールカウンセリングに関わる教員が、クラス運営における個々の子どもの発達理解に基づいた、仲間関係の発達や遊びの意義を読み解く視点について知識を提供し、事例を用いて子どもの行動の意味や、適切な援助を検討する演習をお小茄子。

科目名	社会福祉論							学 期	前期 1 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	溝渕淳	
ナンバ リ ン グ	K1-22-001	実務経験 の有無	無	関連 DP	4, 5		単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 2. 社会福祉の制度や実施体系 3. 社会福祉における相談援助 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題

授業の到達目標

社会福祉全般について理解する。 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。3. 社会福祉における相談援助について理解する。4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業計画

1. オリエンテーション 保育と社会福祉の関係 保育者に求められる役割
2. 社会福祉を支える考え方
3. 社会福祉の歴史的変遷 海外の動向との比較
4. 社会で暮らす人びとの生活課題 社会福祉と子ども家庭支援との関連
5. 社会福祉の制度と法体系 (1) 社会福祉制度と法体系の確立と展開
6. 社会福祉の制度と法体系 (2) 各制度と法体系の内容理解と相互の関連
7. 社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政
8. 社会福祉の施設とそこでの運営
9. 社会福祉の専門職
10. 社会保障および関連制度
11. 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助を支える考え方
12. 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の対象範囲とそれらへの理解
13. 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
14. 社会福祉における権利擁護とサービスの質保証
15. 今後の社会福祉の動向と課題 地域共生社会 まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの該当ページを毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。また、あらかじめ資料が配付された場合、それらにも目を通しておくこと (90 分)。事後学習として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと (90 分)。

テキスト

『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会編『社会福祉』(全国社会福祉協議会、2019)。その他、適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2020』(中央法規、2019)

学生に対する評価

試験 (50%)、レポート (20%)、毎回提出する小レポート (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有している。
- (B) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に整理できる。
- (A) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活に関連付けて説明することができる。
- (S) 社会福祉の理念や諸制度、対象、実践について基本的な知識を有するとともに、それらを体系的に理解し、自らの生活や現代社会の諸問題に関連付けて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出する小レポートについては次回授業時にフィードバックを行う。試験およびレポートについては、最終授業時に全体でのフィードバックを行う。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。 ②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴する。 ③状況に応じて、ICT を活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	保育者論							学 期	前期 1 ターム	
副 題	一					授業 方法	講義	担当者	板倉史郎	
ナンバ リ ン グ	K1-21-005	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい] 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 [授業全体の内容の概要] 1. 保育者の役割と倫理 2. 保育士の制度的位置付け 3. 保育士の専門性 4. 保育者の連携・協働 5. 保育者の資質向上とキャリア形成

授業の到達目標

保育者の役割と倫理、保育士の専門性を理解する。

授業計画

1. 保育者の役割・職務内容
2. 保育者の倫理
3. 児童福祉法における保育士の定義
4. 保育士の資格・要件、失格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等
5. 保育士の資質・能力
6. 養護及び教育の一体的展開
7. 家庭との連携と保護者に対する支援
8. 計画に基づく保育の実践と省察・評価
9. 保育の質の向上
10. 保育における職員間の連携・協働
11. 専門職間及び専門機関との連携・協働
12. 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
13. 保育者の資質向上に関する組織的取組
14. 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
15. 組織とリーダーシップ

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分) ・ 毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習をしておくこと (60 分)

テキスト

伊藤一雄他編著『新しい教職基礎論』サンライズ出版

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

授業への積極的な態度、ミニレポート、小テスト等により総合的に評価

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・講義で扱った用語について説明できる。
 (B)・講義で扱った用語を用いて、講義内容を整理し、記述できる。
 (A)・ルーブリック(B)の内容に加えて、疑問点や自分の考えを記述できる。
 (S)・ルーブリック(A)の内容が説得力があるものとなっている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・ 提出されたレポートは、次回授業時にコメントを加えて、返却する。

その他

・小グループで適宜ディスカッションを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

・ 小学校教員としての経験を活かして、保護者等への対応を中心についての知識、手法について説明、指導する。

科目名	子どもの保健						学 期	前期 2 ターム	
副 題	—					授業 方法	講義	担当者	釜島美智代
ナンバ リ ン グ	K1-21-006	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

〔授業の目的・ねらい〕 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。〔授業全体の内容の概要〕 1. 子どもの心身の健康と保健の意義 2. 子どもの身体的発育・発達と保健 3. 子どもの心身の健康状態とその把握 4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応

授業の到達目標

子どもの身体的な発育・発達と保健について理解し、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び疾病とその予防法について理解する。

授業計画

1. 保健活動の意義と目的
2. 子どもの出生と母子保健の意義
3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4. 子どもの身体発育の評価
5. 子どもの運動機能の発達
6. 生理機能の発達と生活習慣 自律神経・呼吸・循環の発達
7. 生理機能の発達と生活習慣 消化機能・体温・体液調の発達
8. 生理機能の発達と生活習慣 排泄の発達
9. 生理機能の発達と生活習慣 睡眠の発達
10. 生理機能の発達と生活習慣 感覚機能の発達
11. 健康状態の把握
12. 体調不良時の把握とケア
13. 子どもに多い主な病気の特徴① 感染症
14. 子どもに多い主な病気の特徴② 感染症以外の病気
15. 子どもの保健 到達度確認

準備学習(予習・復習)・時間

授業中に別途指示する。

テキスト

鈴木美恵子編著 「これだけはおさえて！保育者のための子どもの保健」 創成社 2019

参考書・参考資料等

日本外来小児科学会編著『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド第4版』 厚生労働省 「保育所における感染症ガイドライン(2018年改訂版)」 2018

学生に対する評価

授業内の課題(30%)、課題レポート(10%)、到達度確認テスト(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子どもの健康を守るために必要な最低限の知識を習得している
- (B) 子どもの健康を守るための幅広い知識を習得している
- (A) 子どもの健康を守るための知識を資料などを調べることでより深めることができる。
- (S) 子どもの健康を守るための知識を応用して問題を解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に提出したワークシートは確認して返却する。 授業内に行った小テストは授業で解説する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

小児病棟、病児保育、放課後デイサービス、小児救急電話相談事業に従事した経験のある教員が病気になった時の子どもの様子や病気の子どもの看護する保護者の様子などを紹介し、学生が実際の場面をより具体的にイメージできるように授業を行う。

科目名	障害児保育							学 期	後期 4 ターム	
副 題	一					授業 方法	演習	担当者	南亜紀子	
ナンバ リ ン グ	K1-21-007	実務経験 の有無	有	関連 DP	2, 3, 4		単位数	2	他	A

授業の目的と概要

〔授業の目的・ねらい〕 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

〔授業全体の内容の概要〕 1. 障害児保育を支える理念 2. 障害児等の理解と保育における発達の援助 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 4. 家庭及び自治体・関係機関との連携 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題

授業の到達目標

障害児保育を支える理念及び個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作成することができる。

授業計画

1. 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷、障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
2. 肢体不自由児の理解と援助
3. 知的障害児の理解と援助
4. 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助
5. 発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD-学習障害等）
6. 発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等）
7. 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助、その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助
8. 個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合い
9. 障害児保育における子どもの健康と安全、健康と安全を守る職員間の連携・協働
10. 保護者や家族に対する理解と支援、保護者間の交流や支え合いの意義とその支援
11. 障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）との連携・協働、小学校等との連携
12. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの指導計画及び個別の支援計画の作成
13. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保健・医療における現状と課題
14. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの福祉・教育における現状と課題
15. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの支援の場の広がりとながり

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業を振り返り、知識の再構築を図り、今後、どのような技量を身につける必要があるかを確認する（60分）。また、授業で課されたテーマについて、ミニレポートとして提出すること（60分）。

テキスト

井村圭壮、今井慶宗編『障害児保育の基本と課題』学文社

参考書・参考資料等

随時提示する。

学生に対する評価

授業への積極的参加、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する（100%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）障害児保育を支える理念及び障害の特性を理解できている。
- （B）障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を考えることができる。
- （A）障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法を踏まえて保育の計画を作成し、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。
- （S）障害児の特性を理解し、個別支援の在り方や保育目標を定め、保育活動に反映できる。さらに、保護者支援に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

個別指導計画作成の回には、具体的な事例を基に、グループワークで個別指導計画を作成し、各グループごとにプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士、公認心理師の資格をもつ。キンダーカウンセラーとして大阪府内の幼稚園に巡回する中で、現場の保育士がどのようなことを考え、悩みを聞き、また、個別支援の必要な園児に対し、どのように関わり、保育計画を立てていくのか助言する立場にある。また、保護者に対する育児相談にも関わっている。これらの経験から、障害児保育について知識と手法を身に付け、さらに保育者として保護者支援の在り方についても、指導する。

教 員 別 索 引

あ	青 木 淳 英	日本国憲法	7
	青 木 宏 樹	体育の理論と実技	32
		基礎ゼミ I	2
		幼児と健康	18
	浅 井 雅 宏	日本文化	24
い	板 倉 史 郎	保育者論	38
	伊 藤 佳 世 子	English Communication I	4
		創作研究	26
	今 西 幸 蔵	教職入門	10
		学校・保育現場体験 I	29
う	植 田 恵 理 子	音楽科内容論	14
お	岡 部 美 香	教育原理	9
	岡 本 文 音	音楽 I (表現技法)	17
		茶道	27
	岡 本 正 志	科学技術と社会	21
	奥 田 修 一 郎	社会科内容論	12
		地域体験基礎	20
	帯 野 久 美 子	キャリアデザイン I	5
か	釜 島 美 智 代	子どもの保健	39
こ	兄 島 昌 雄	理科内容論	13
し	茂 野 仁 美	幼児理解方法論	36
そ	添 田 隆 昭	空海の思想入門	1
	曾 我 部 和 馬	教育原理	9
た	竹 田 義 義	植物栽培の基本	22
な	永 島 龍 弘	ほとけの世界	6
	那 須 義 次	自然と人間	23
の	野 田 悟	書学入門(書道)	28
は	範 衍 麗	身体技法(ダンス)	35
ひ	広 瀬 勝 則	情報と教育	8
		AIと世界	33
ま	松 本 歩 子	基礎ゼミ II	3
		家庭科内容論	15
		地域体験 II	31
み	溝 淵 淳	社会福祉論	37
	南 亜 紀 子	障害児保育	40
む	宗 田 好 史	世界遺産と観光	34
	村 尾 聡	基礎ゼミ II	3
		国語科内容論	11
		文学	25
も	森 本 敦 子	初等英語科内容論	16
や	柳 原 高 文	地域体験 I	30
	山 田 正 行	基礎ゼミ I	2
よ	吉 次 豊 見	幼児と人間関係	19

文学部教育学科

講義概要・授業計画 令和3年度(2021)

2021年4月1日発行

編集・発行 高野山大学

〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685
大阪千代田短期大学内

Tel. (0721) 53-1101 (河内長野キャンパス事務室)

Fax. (0721) 53-1101 (河内長野キャンパス事務室)

E-mail : kyoiku@koyasan-u.ac.jp

URL : <http://www.koyasan-u.ac.jp>
